

第6章 災害を 振り返って

6.1	インタビュー (広報うわじま「災害復興掲示板」より) ……………	110
6.2	報道記事 (愛媛新聞より) ……………	118
	宇和島市災害記録誌制作に寄せて 後世に伝えたい・残したい 「あのときの声、あのときの想い」 ……………	147

第6章 災害を振り返って

6.1 インタビュー（広報うわじま「災害復興掲示板」より）

「広報うわじま」では平成31年5月号から、復興に向けてさまざまな活動に取り組む方々へインタビューを行い、「復興掲示板」のコーナーに掲載してきました。その中からいくつかの記事を抜粋し、再編集したものを改めて紹介します。（※インタビューの内容は取材当時のものです）

①吉田方面隊 副方面隊長／平山 裕さん【令和元年7月号】

いつでも対応できるよう、今まで以上に備えている

今回の災害で、地元の消防団員は過酷な現場で活動を続けてきました。発災後から三日三晩は昼夜問わず活動にあたりましたが、なかには自宅が被災した団員も多く、心身ともに疲労が心配されました。自分は現場ではなく吉田支所の本部で各分団から行方不明者や土砂崩れ箇所などの情報を収集して現状を把握し、各分団への指示を行っていました。しかし混乱する状況のなか、訓練のように適切な指示を出すことができず、各分団から報告を受けながらも現場の最前線で活動する団員の身が心配で、気が気ではありませんでした。見回り中の消防士が土砂崩れに遭い、立ち往生したこともありましたが、なんとか無事でした。過酷な状況にも関わらず、全員が無事だったことは不幸中の幸いでした。

発災以降、各分団の中で当時の課題などを話し合い「災害はいつ起きるかわからない」という危機感を高めてきました。災害が起こらないことが一番ですが、万が一の時には全力で活動にあたりたいと思っています。



②市NPO団体^{いぶ}代表／薬師神 理子さん【令和元年8月号】

外で遊ぶ子どもたちの笑顔を取り戻したい

発災後、社会福祉協議会の子育て支援メンバーや他のボランティアと協力して、子どもの遊び場づくりや楽器演奏を通じた音楽支援、足湯などのサロンを開催し、子どもから高齢者までの心のケアに取り組んできました。



被害の大きかった吉田町では発災以降、子どもが外で遊ぶ姿を見かける機会が少なくなっていました。吉田公園は災害ごみの仮置場になり、災害ごみがなくなった後も利用できない状況が続いていました。「どこかに外遊びができる機会をつくりたい」と思い、吉田伊達広場で外遊びをテーマにしたプレーパークを開催。2月という寒い時期にも関わらず、たくさんのお子どもたちが集まりました。イベントの開催費用にはYahoo! ネット募金も活用できることになり、月一回程度開催できる見込みも立ちました。

こういったイベントを通して、少しずつではありますが、子どもたちの姿が戻りつつあります。もっとたくさんのお子どもたちに笑顔が戻るように、これからも活動を続けていきたいです。

③新規就農者支援コーディネーター／玉城 圭隆さん

【令和元年9月号】



地域をつなぐパイプ役—コーディネーターとしての挑戦

熊本地震で災害ボランティアに関わって以来、災害支援に携わるようになりました。7月豪雨災害では、全国で災害支援活動を展開するNPO法人ユナイテッドアースとともに現場に入り、1年後に団体が撤退した後も宇和島市で復旧・復興に向けた活動に携わってきました。

宇和島市では、これまで活動をともにして来た団体が先に地域との関係づくりに取り組んでいたことや、JA えひめ南と連携できたことで復旧・復興支援が円滑に行えました。外部団体として災害支援に携わってきたからこそ、活動の中で支援者と地域をつなぐパイプ役の重要性を強く感じています。

今後も宇和島市を拠点に活動を続けたくて移住して来ました。現在は自身で運営するNPO団体ナナの森で、災害支援活動や防災活動に取り組んでいます。また（一社）RCFからの委託を受けて、新規就農者支援のコーディネーターに着任しました。発災前から地域の課題とされていた柑橘産業などを中心とした担い手不足解消に向けて取り組んでいます。

④美味工房みちよ／河野 美知代さん 【令和元年10月号】

楽しみに待っていている人のために

20年以上太刀魚巻を販売してきましたが、豪雨により増水した河川の被害に遭い、店舗や業務用冷蔵庫など設備のほとんどを失いました。水も出ない、設備も使えない状況で、店を営業することはできませんでした。被害の大きさや自分の年齢を考え、営業再開は諦めようかとも思いました。しかし、楽しみに待っていている人のために…という娘夫婦の後押しもあり、グループ補助金を活用して営業を再開することができました。



慣れない補助金の申請は娘夫婦がやってくれましたが、被災した設備が多くて書類をまとめるのにも一苦勞。普段から事業用設備などに関する書類を整理しておくことが大切だと学びました。新店舗には新たにイートイン席を設け、食事を楽しんでいただけるようにもなりました。みなさんの支援がなければ再開にたどり着くことはできなかったと思います。失ったものも多いですが、楽しみにしてくれている人への恩返しのためにも10年、20年先もこの味を提供し続けていきたいです。

⑤だんだんカフェの運営メンバー【令和元年11月号】

ほっとひと息つける場所で癒しのひとときを届けたい

毎月吉田公民館で開催している「だんだんカフェ」では、仮設住宅の入居者や地域の高齢者、子どもたちが参加し、ゆっくりした時間を過ごしています。カフェの開設には、高知県立大学で共同災害看護学を専攻する看護師や、保健師資格を持つ大学院生が携わりました。発災後は災害ボランティア参加者の健康管理に努め、その後も引き続き被災者支援などに携わっています。

災害による健康被害はしばらく時間が経過して現れることがあるため油断ができません。さらに高齢者の孤立やひきこもり、生活環境の変化による健康状態の悪化などの問題を防ぐために、地域の人たちが集まる機会をつくろうとカフェを始めました。訪れる人たちはお茶を楽しみながら世間話をしたり、血圧測定や軽い体操などを行ったり。カルタやおもちゃなどもあるので子どもたちも一緒に楽しんでいます。市社会福祉協議会地域支え合いセンターも運営に加わり、学生たちと協力して今後もカフェを継続していく予定です。



⑥市社会福祉協議会／左：藤原さん、右：清家さん【令和元年12月号】

一度経験したからこそできる支援

平成30年10月に東日本を襲った台風19号は、宇和島市と姉妹都市である市町にも大きな被害を及ぼしました。市社会福祉協議会からも宮城県大崎市へ職員が派遣され、災害ボランティアセンター運営業務の支援に携わりました。大崎市では吉田川が氾濫し、広範囲にわたり浸水被害が発生していました。被災した家屋に流れ込んだ稲わらや家具などを搬出すると同時に、各世帯へ要望の聞き込みも行いました。

宇和島市を襲った豪雨災害では、災害ボランティアセンターの役割として「細かな要望の聞き込み」が課題とされました。災害時は作業を依頼することを遠慮してしまう人もいるため、要望を募るのではなく直接聞き込みを行うことが重要でした。大崎市の活動では、被災者が抱える要望や課題などを福祉的な視点で聞くことができました。



災害はいつどこで起こるかかわからないと身にしみて感じています。7月豪雨という経験を経たからこそその視点や知識をいつでも活かせるようにしたいと思っています。

⑦応援職員／左：小澤さん（仙台市）、右：立花さん（新居浜市）

【令和2年1月号】

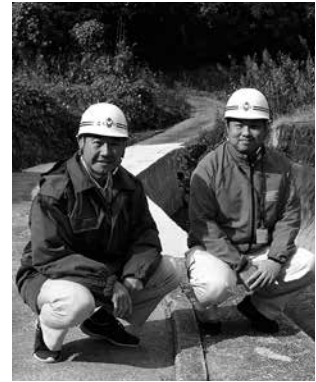
まだまだ続く復旧工事—少しでも早く進めるために

平成30年7月豪雨では、宇和島市内の至る所で河川・道路の崩落が発生しました。その損傷の程度はさまざまで、原型がわからないほど崩れたところもあれば、部分的に崩れているところなど、多数の被害が確認されました。そして発災から1年以上が経っても、工事業者の数が限られ、被害件数の多さに作業が追いつかない状況が続いていました。

小澤さん：姉妹都市の宮城県仙台市から派遣されてきました。東日本大震災のときにも災害復旧工事に携わった経験がありますが、あまりにも広範囲にわたる被害に作業がなかなか進まず苦勞しました。

立花さん：大規模災害時の連携市である新居浜市から派遣され、7月豪雨の発災当初から給水支援に携わっていました。その後も引き続き被災地を支援したいと思い、災害復旧工事に携わっています。

実際に被災現場を訪れるなかで、被害の大きさを改めて感じています。被害の大小にかかわらず、1件でも多くの工事を進められるよう力を尽くしたいと思います。



⑧吉田町／杉田 和男さん 【令和2年2月号】

私にもできること

付近を流れる河川が氾濫し、自宅は床上浸水被害を受けました。介助が必要な母を2階に避難させる間に膝上まで水が迫り、浸水した水で部屋のドアも開けられない状態となるまであっという間の出来事でした。“災害時に助けを待っている時間はない”。これをきっかけに自分たちでできる備えの大切さを実感しました。同時に、地域で防災意識を高めることが必要であり、地域の中で助けが必要な人の情報を把握することが大切だと考えました。

自治会で地域防災について話し合い、地区内の各戸を訪問して聞き取った世帯状況の情報をもとに、



住宅地図と関連づけた防災避難マップを制作し、緊急連絡体制も見直しました。また、災害時の写真収集にも取り組んでいます。なかには普段の生活からは信じられない様子の写真もたくさんありますが、これらは実際に起きたことであり、またいつ起きるかわからないことです。当時の様子を記録し、災害への防災意識をいつまでも忘れないよう残し続けたいです。

⑨愛媛資料ネット／宮本 春樹さん【令和2年4月号】

水に浸かった歴史文書—文書が語る情報を残すために

旧立間村時代から保存されている文書が保管されていた立間公民館の1階は、本村川の氾濫により浸水し、貴重な文書の多くが水に浸かりました。

旧立間村役場跡に建てられた立間公民館には、近年まで村役場時代の文書蔵が敷地内に残っていて、立間地区に関する文書などが数多く保管されていました。なかには明治初期から戦前までの地区の様子を記録したものもあり、当時の柑橘農家の暮らしや産業発展の様子を記録したものもあります。災害発生前には文書目録もでき、館内での文書室で整理保管されていました。

今回の浸水による被害を受けて、愛媛大学法文学部日本史研究室に事務局を置くボランティア団体「愛媛資料ネット」が被災文書の修復作業に携わることになり、被災した資料のうちダンボール106箱分が回収されて修復作業が続けられています。明治時代の学校記録や戦後の青年団文集まで、地域の思い出となる資料を次の時代に残すことができました。引き続き作業を進めていきたいと思っています。



⑩みかんボランティアセンター／岡田 雅信さん【令和2年5月号】

みかんの木で作った小物でまちの賑わいにつなげたい

豪雨災害により大きな被害を受けた柑橘産業の復旧・復興を後押しするため、みかんボランティアセンターが中心となって、みかんの木を活用した小物作りに取り組んでいます。平成31年2月には愛媛・南予の柑橘農業システムが日本農業遺産に認定されるなど、復旧・復興を後押しする話題も少しずつ出てきています。続けて明るい話題を提供していきたいとの思いから、みかんボランティアセンターとNPO団体などと協力し、柑橘産業のPRにつながるアイデアを出し合ってきた中で、植え替えによって切られたみかんの木を活用した取組みを始めました。

ペン立てやハンコ置きなどの文房具、靴べら、タイピン、栓抜きなどの生活用品、カスタネットやキーホルダーなどさまざまなものを作っています。作品は、木を輪切りにして乾燥させ、表面がなめらかになるまで磨いて仕上げていきます。まだ試作段階ですが、将来的に柑橘産業のPRにつなげられるようにこの取組みを続けていきたいです。



⑪地域支え合いセンター 管理者／佐藤 猛さん【令和2年7月号】

災害で失われた地域のつながりを取り戻したい

被災により自宅を離れ、応急仮設住宅で生活している世帯などを月1回程度訪問し、被災した人たちの生活再建支援を行っています。応急仮設住宅の期限は入居から2年間で、生活再建の状況で延長の可否が決まります。各世帯の状況を聞き取り、住宅確保に向けた手続きの支援や生活再建に向けた相談会を開催し、必要に応じて関係機関につなぐサポートをしています。

地域住民の交流イベントやサロン活動など、住民が交流する場所づくりにも取り組んでいます。豪雨災害で集会所などが被災し、サロンの開催が困難になった地区が多くあり、またみんなで集まりたいという声を受けて地域支え合いセンターでサロンの運営をサポートしています。

新型コロナウイルスの感染拡大によりサロンの開催が難しい状況が続いていますが、サロンを続けることは地域の防災力や福祉力の向上にもつながる大事なことです。このまま活動を止めてしまうのではなく、感染防止の対策をしながら続けていく方法を検討していきたいです。



⑫旭合名会社醤油醸造所／中川 賢治さん【令和2年8月号】

この味を待っている人たちのために

旭合名会社醤油醸造所は明治15年に創業し、自分で4代目になります。実家はみかん農家ですが、妻の実家の醤油屋を継ぎました。独自開発したオリジナル商品で商売も軌道に乗り始めたところでの豪雨災害。大型の冷蔵庫、冷凍庫を備えた新工場を構えたばかりのことでした。あっという間に水が腰ほどの高さまで来て、機材や商品がすべて水に浸かってしまいました。

県内外の知人の手を借りながら、またグループ補助金やクラウドファンディングなども活用しながら、再起に向けて必死に取り組む日々。被災から1年と半年が過ぎた頃、ようやく少し落ち着いてきましたが、それまでは本当にあっという間でした。しかし新型コロナウイルスの感染拡大により海外への輸出はストップし、首都圏への流通も激減。売上は大きく落ち込みましたが、これからもこの味を待っている人たちのために、まだ知らないたくさんの人たちに届けるために、できることはどんどんやっていきたいと思っています。



⑬はるちゃん天ぷら 代表／山本 ハルミさん【令和2年9月号】

苦しい時期を乗り越えた。これからも元気に続けたい

冷凍しても品質が落ちない新しいじゃこ天を開発しようとしていた矢先に豪雨災害が発生。当時は店を続けるのは難しいかもしれないとも考えましたが、「続けて欲しい」という周りの声に励まされて営業再開を目指しました。慣れないパソコンを使って知人が紹介してくれたクラウドファンディングに挑戦し、集まった支援金で機材購入資金を賄い、ホームページを開設することができました。

全国からの支援のおかげで無事に新商品も完成し、真空と冷凍商品の販売を開始。賞味期限が短いという無添加ならではの課題をクリアし、インターネットを活用することで全国のみなさんに宇和島のじゃこ天を味わってもらえるようになりました。しかし、新商品は完成したものの働き手も高齢化が進み、原材料の価格も高くなるなど厳しい状況ではあります。しかし、みなさんからの支援のおかげで豪雨災害の苦しい時を乗り越えることができました。その思いを胸に、今後も宇和島ならではの味を残し続けていきたいです。



⑭現地駐在員／橋本 健太さん【令和2年11月号】

災害を乗り越えてこそそのつながりを活かす

宇和島市と（一社）RCFの間で締結された「宇和島市復興まちづくりに関する連携・協力協定」に基づいて（株）ウインウインと地域おこし企業人材派遣協定が締結され、2代目現地駐在員として若手農家を中心とした担い手チームづくりや、復興にかかる中間支援組織などの立ち上げに取り組んでいます。

中学生のときに福島で東日本大震災を経験したことで、地域のために働きたいと思っていて、ウインウインに入社して宇和島とのつながりを知り、すぐに宇和島行きを希望しました。しかし、地域のために何かしたいという思いが強まるなかでの新型コロナウイルスの感染拡大。赴任当初は人と会うこともままなりませんでしたが、ある程度外出できるようになってからは積極的にいろいろな場所に顔を出し、新規就農者のサポートなどを行っています。宇和島には魅力的なものがたくさんあり、宇和島を愛している人もたくさんいる。そういったヒト・コト・モノをつなげて今後活かしていければ嬉しいです。



⑮ NPO 法人奥南でざいんセンター 代表／奥谷 篤巳さん

【令和3年1月号】

ピンチをチャンスに。明るい話題を提供したい

7月豪雨によって、吉田町奥南地区は土砂崩れなどで大きな被害を受けました。災害をきっかけにボランティアなどで多くの人が宇和島市を訪れ、支援をしてもらうなかで宇和島のことを知ってもらうことができ、そのチャンスを自分なりに活かしたいと思いました。以前から地元の大工さんと共同で、間伐などで出たみかんの木を加工して楽器づくりに取り組んでいたこともあり、豪雨災害で流されたみかんの木を活用し、ギターを制作してみたり、令和元年5月には復興を目的とした「みかんフェスティバル」を地元で企画。災害ボランティアでつながりを持った人たちを含めて200人以上が集まりました。

新たな取り組みとして、地元の空き家を活用したゲストハウスもつくりました。広い座敷と台所があり、人が集まるにはもってこいの環境です。災害を機に人がつながることの価値を改めて感じました。この場所を多くの人に使ってもらい、奥南地区で人のつながりを生み続けていきたいと思っています。



⑯生産者グループ（有）南四国ファーム 会長／清家 久万夫さん 【令和3年2月号】

困難を乗り越え、産業を守る覚悟

南四国ファームの直売所も豪雨災害で大きな被害を受けました。特に被害が大きかったのがきなはいや三万石で、床上まで浸水して冷蔵設備が使用できなくなり、発災後1ヶ月は休業して片付けに追われました。以前は観光物産センターとしておみやげ品などを多く扱っていましたが、「地元生産者の産品が並ぶ、地元の人たちが通う場所にしたい」と直売所に業態を替え、地元の人が欲しいものをそろえることで、地域の人が行き交う場所として親しまれていました。

今では設備も復旧してにぎわいを取り戻しましたが、みかんの産地としてこれまでもさまざまな困難があったはず。しかし先人たちはそれを乗り越え、今に残してくれている。今回の災害を経験して、その責務について改めて重要性を感じました。豪雨災害による被害や後継者不足の問題など課題は多くありますが、今の時代を担う人たちが協力してこの産業を守っていかねばいけない。これからもおいしいみかんを全国に売り続けていきたいと思っています。



6.2 報道記事（愛媛新聞より）

豪雨災害が発生してから、連日にわたってテレビや新聞などにより被害の程度や救助の様子、被災地の状況などが報道されてきました。その中にはあまりのことに目を覆いたくなるような内容もあれば、勇気付けられるような内容など、さまざまなものがありました。愛媛新聞朝刊に掲載された平成30年7月31日までの豪雨災害関連の記事を一部抜粋して紹介します。

陸路が寸断された宇和島市吉田地区に、海路で向かう宇和島警署と宇和島消防署の署員ら。7日午前11時15分ごろ、宇和島港（撮影・中田佐知子）



海路で吉田へ



倒壊した家屋

冠水で通行ができなくなった国道578号。奥には倒壊した家屋が見える。7日午後4時10分ごろ、宇和島市吉田町神村（撮影・宇和上翼）

平成30年7月8日（日）



会話や防災無線もかき消す。7日明け方から、宇和島市を猛烈な雨が襲った。またたく間に川の水かさが増し、吉田地域を中心に土砂崩れや床上浸水などが発生。住民は体恤した。この不慮な被害に不安な一日を過ごした。

宇和島 吉田 ぐう音 声かき消す

大雨で床上浸水した家。壁が浮き上がり家財道具が散乱していた。7日午後4時20分ごろ、宇和島市吉田町神村（撮影・宇和上翼）



裏のミカン山から落ちてきたモノラックを取り除く。ぶるぶる音、土居さんらがといて土砂にのみま。駆け付けたが、次々と襲い

妻の水や泥に阻まれ救助は難航した。土居さん方も流木で、さが「外に出ようにも身動きがとれない。今朝の雨はすこく、あつという間に水が来た。こんなことは初めて」と不安をにじませた。宇和島消防署や宇和島署は、宇和島海上保安部の巡視船や警察船も利用し救助に向かった。要請に対処が追いつかないとして、市を通じて自衛隊の派遣を要請。負傷者の搬送や行方不明者の捜索は終日続いた。市中心部と吉田地域を結ぶ国道56号は、冠水や土砂

流入で通行止めに。同市吉田町神村では主婦山下百合子さん（67）がぼうぜんとしてた。山下さんによると、午前8時ごろから冠水。勢いは増し、最大1メートル以上の水が押し寄せた。1階は壁も浮き上がった。山下さんは、「この土地に来て約50年だが、こんなひどい水害は初めて。大事にしてきた家具などが台無しになった」と涙を落とした。

平成30年7月8日（日）



土砂崩れに巻き込まれた行方不明者を捜索する関係者—8日午後1時10分ごろ、宇和島市吉田町南君(撮影・石田一真)



道路越流 近畿した赤木川(右)、道路を越流し、田に水が溢れ込んだ。8日午前10時。撮影・入、愛州河川協会(撮影・田中康雄)

「ただただ見つかった」

不明者捜索家族の祈り

宇和島

生きてて

7日の豪雨で多くの住民が安否不明となった宇和島市の吉田地域では8日、消防員らが自衛隊員や各警察の応援を受け、捜索に全力を挙げた。

「おたぞー」。8日午後4時すぎ、消防員の声が響いた。関係者が現場の周りをフル1シートで囲み、機たたくし動きまです。土砂の中から11歳の女性を救出したが、知人が何度も名前を呼んでも反応はなかった。

土砂崩れで家が倒壊し、男女3人が行方不明になっている吉田町南君。前日に続き、午前5時ごろから消防員らがショベル

カッターや重機などで救助に当たっていた。

住民による3人は女性と小学生男児の息子。近隣の50代主婦は「仲が良く、男の子はおぼろげに覚えていた。おたぞー」と話す。別の女性は「家と真向まで連絡を取っていたので、避難所に移動しようとする矢先の出来事だったのでないか」と振り返る。近所の男性(88)は「もう少し早く逃げるように伝えてあげられていれば」と悔やんだ。

砂が一気に家屋に流れ込んだ。2世帯5人が巻き込まれ、1軒はコンクリート岸壁が崩れて海に押し出され、もう1軒は敷地内で押しつぶされた。

同所の泉崎さん(81)は頼みごとに従って、2階に上がった直後に土砂崩れが起きた。「何が起きたのか、思い出せない」とボツリ。義弟の一家が被災したただ見つかったほし」と話していた。

市が配布した非常食や持ち寄りた食料でやりくりしている。炊き出しのおにぎりを作った吉田高校1年の水口紗耶香さん(16)と若下千咲さん(15)は「友だちの安全が確認できたので、安心。早く帰ってほしい」と話した。

避難所となっている吉田町東小路の吉田公民館には8日、水を求める住民らが並び、列をつくった。町立公民館の主婦(29)は「7日朝の雨がひどく、自宅近くの川があふきすぎて、避難所まで来た。おたぞーと話をした。同所、介護職員清水司さん(88)は家族4人で避難し、「子どもを心配させないよう」に必死だった。7日午後8時すぎ、商店街が池のようになっていることに気づき、壁まで水に浸かりながら逃げた。職場までのルートがなく、限られた介護職員に任せている状態」と嘆いた。

宇和島市によると、8日正午現在、市内3カ所の避難所に227世帯837人が避難。吉田町白油では、数十人態勢で救出活動が続いた。自治会長の塚田約さん(70)によると、7日朝、短時間に複数箇所から斜面が崩落。ゴーワという音とともに上

吉田町東小路のスーパー「しんばし吉田店」の店内は7日に浸水し、棚が浮いて商品が散乱した。青橋芳和店長(40)によると、朝の出発時には水が少し入ったほどだったが2時間ほどして、棚が浮いて商品が散乱し、泥にまみれたものは売り物にならない」と頭を悩ませた。

近くの女性事務員(65)は「雨が降く降る音や、川のゴーという音が怖かった。傍で吉田で過ごしてきて初めてのこと。警戒を弱めないようにしたい」と語った。

(宇和上真、石田一真、山内祐、中田佐知子)

◆ふるさと納税サイト利用し寄付受け付け 宇和島市はこのほど、ふるさと納税のポータルサイトを「ふるさとチョイス」を利用した、豪雨災害に伴う緊急寄付の受け付けを始めた。同サイト内に災害支援フォームを設置し、10日までに約900件の寄付が寄せられている。

寄付はサイトの「平成30年7月豪雨」特設コーナーから同市への支援ページ (<https://www.furutsator-tax.jp/saigai/detai/100>) に入力して寄付が可能。応

援メッセージを送ることもでき「生まれ育った町が被災し心を痛めますように」など温かい言葉が書き込まれている。寄付は全額が災害復旧に充てられ、返礼品はない。市長公室は「全国からのメッセージが力になっている。寄付金を被災者に役立てるよう全力を尽くしたい」と話している。

同日までに大洲、西予両市も支援フォームを設置している。

平成 30年 7月 11日 (水)

ボランティア受け入れへ

今治、西予、宇和島社協
豪雨災害を受けたボランティアの受け入れに向け、今治、西予、宇和島3市の

社会福祉協議会が9日、災害のボランティアセンターを立ち上げた。宇和島市は同時に市民を対象にボランティアの受け付けを始め、西予市は11日から市内在住者を対象に募集する方針。

今治市は被災者の支援ニーズを聞き取るなどしている。ほかに大洲市の社協は10日にセンターを開設し、本格的な募集を開始する予定。鬼北町は設置を検討している。

宇和島市は10日にボランティア募集の窓口になる各市町のセンターを後方支援する。県社協の担当者はボランティアの心構えについて、

自己完結が原則で、食料や水などを確保して参加するようアドバイス。各市町の募集状況を確認し、活動の際には「被災者の生活再建が一番」ということに留意してほしいとした。

平成 30年 7月 10日 (火)

被災地での犯罪防げ

南予3署管内 県警が24時間巡回

豪雨災害に乗じた空き巣などの犯罪抑止や住民不安の解消に向け、県警は9日から被害の大きい大洲・西予・宇和島の3署管内で、24時間体制のパトロールや被災家屋の戸別訪問、避難所での相談活動などを始めた。会員制交流サイト(SNS)で災害に関連するデマが流れているとして注意

喚起もしている。県警生活安全企画課によると、過去の災害時の事例などから、住民が避難中の家屋に侵入する空き巣▽金活動と称した詐欺▽災害の不安につけこみ、必要のない工事契約の締結や商品購入を求める便乗商法の発生が懸念される。

9日午後4時現在、災害関連の空き巣被害は確認されていないが、県警はパトカーや捜査車両で24時間体制のパトロールを開始。3署以外の警察署捜査員を投入し捜査活動も強化した。併せて被災家屋の訪問を行い、住民の安否や家屋の安全を確認している。9日は約10人の警察官が宇和島市の吉田町地域などで実施した。

女性警察官らによる避難所の巡回もスタートし、9日は3人1組のチームで住

民から相談を受け、要望などを聞き取った。今後の警察活動に反映させる方針。生企課によると、SNSでは現在、「〇〇ナンバーの窃盗グループが被災地に入っている」といった情報が入っている。県警はホームページやメールマガジンでも注意喚起を行っている。

平成 30年 7月 10日 (火)

お風呂 無料で入れます

津島やすらぎの里

宇和島

宇和島市は10日から、断水が続いている吉田、三間両地域の住民と災害ボランティアを対象に、同市津島町高田の道の駅「津島やすらぎの里」の温泉施設の無料開放を始めた。

受付で住所や氏名など必要事項を記入すれば施設を利用できる。免許証など身分証明の提示は不要。

10日は午前10時の会館前から大勢の家族連れらが来館。断水の影響で入浴できずにいた人たちは、ゆっく

りと湯船につかり、疲労がたまった体をリフレッシュしていた。

市担当者は「温泉に入っ

て少しでも心身を休めていただきたい」と利用を呼び掛けている。

温泉の湯量を確保するため、無料開放の期間中は足湯と家族風呂を休止する。

営業は午前10時～午後10時(同9時半札止め)。第1、

3月確定休。問い合わせは津島やすらぎの里 電話0895(20)8181。

森の国ぼっぽ温泉

松野

豪雨被害を受け、JR予土線松丸駅駅舎2階にある「森の国ぼっぽ温泉」(松野町松丸)は10日、11日から16日まで入浴料金を一律無料とすることを決めた。

同温泉関係者によると、近隣地域で断水が多く発生していることから対応を検討。無料期間終了後も、7月中は特別価格設定で営業する。

17日以降は被災者の入浴は無料で、被災者以外も高校生以上250円(通常510円)、65歳以上200円(410円)、中学生150円(310円)、小学生80円(150円)と半額水準の価格で営業する。

同温泉の森口泰支配人は「地域全体が甚大な被害。皆さんの疲れを温泉でねぎらいたい」と話している。

平成 30年 7月 11日 (水)

吉田浄水場の 応急対応検討

県災害対策本部会議
第8回県災害対策本部会議が11日、県庁であった。宇和島市吉田、三間両町に給水する吉田浄水場の復旧について、専門のコンサル

ティング会社が現地入りし、簡易浄水施設を設置するといった応急対応を検討している。県環境部が報告した。
同部は早期復旧は困難としながらも、九州北部の豪雨災害などでろ過装置をリースした事例などがあることから、水源が確保できれば浄水できるとした。浄水1戸などの提供に関する専用ホームページを開設した。
復旧する見込みとした。
中村時広知事は被災（りさい）証明発行といった生活再建支援に「場合によっては仮設住宅の建設なども必要になってくるかもしれない」と見通しを語った。（清家資奈恵）

平成30年7月12日（木）

古里復興奉仕の汗



被災者宅へ出向きボランティア活動に精を出す宇和島東高生。10日午後1時半から、宇和島市吉田町吉田。

宇和島 ボランティア活動開始

豪雨により甚大な被害を受けた宇和島市吉田地域で10日、市社会福祉協議会が募ったボランティアが活動を始めた。参加した30人以上の市民は、被災地の惨状に心を痛めつつ、汗を拭いながら作業に没頭した。
同社協は市民限定で9日に募集を始め、10日から現地活動をスタート。同日午前8時半、受付窓口の市総合福祉センター（住吉町1丁目）に集まった市民は、土砂除去や給水作業の補助など具体的な活動の指示を受け、依頼を受けた現場に向かった。
民家や泥のかき出しをした40代男性は「写真など

で見ているが、悲惨な状況で驚いた。宇和島ではないみたい」と絶句。「微力だが自分のできることをしたい」と黙々と作業を続けた。
大洲市社会福祉協議会は10日、同市東大洲の市総合福祉センターに「災害ボランティアセンター」を開設した。被災者のニーズとボランティア活動をマッチングする。被害が規模で人手不足などとして、ボランティアの募集を並行、愛媛のほか徳島、香川、大分、宮崎と想定している。
初日は、高齢者から家具の移動や掃除、土砂の片付けなど34件の依頼があり、ボランティアは県内を中心に161人、団体（計82人）が登録した。

野球場1年の土居毅人さん（16）は、やっと来られた。動けるだけ動いて力になりたい。同部マネジャーで3年成合紗耶さん（17）は「自転車で来た。重労働だが、時間を空けて今後も参加し続けたい」と笑顔で話した。
同社協の島忠史さん（43）

平成30年7月11日（水）

牛鬼まつり中止決定 宇和島

「わじま牛鬼まつり実行委員会（会長・岡原文彰宇和島市長）は11日、同市丸之内1丁目の宇和島南太倉館で緊急会合を開き、市内などでの豪雨災害を受け、22日から開催予定の「第52回わじま牛鬼まつり」を中止すると決めた。実行委によると中止は1967年以来2回目、自然災害による中止は初めて。
「わじま牛鬼まつりは毎年7月22・24日、和霊大祭（同23、24日）に合わせ開催する南予最大の夏の祭典。「わじまガイヤカーニバル」や「親牛鬼パレード」があり、県内外から訪れる大勢の人でにぎわう。委員会には約80人が出席した。岡原会長は同市の被災状況を伝えた上で、「一度立ち止まり、市が一つになるために中止にすべきだ」と述べた。出席者から「現場は涙が出るほどひどく、中止は妥当」といった意見や「厄払いなどの意味で縮小してでも行

べきでは」となどの意見が出たが、最終的に大きな賛論は出ず中止が決定した。
岡原会長は「長く親しまれてきたまつりが中止となり、皆さまに申し訳なく思う。来年開催できるように、

市として全力で復興に取り組みたい」と話した。
和霊神社によると12日に継代が集まり、走り込みなど開催大祭の神事開催について協議するという。（石田一真）

年例より早い5月中旬からほぼ毎日、朝練などを繰り返して、一丸となってダンスを磨いてきた。
同短大部の学生募集は、2019年度以降の中止が決まっていた。今年が1、2年生がそろそろ最後の大会だった。1年の梅津奏子さん（19）は「先輩たちと踊りたかったけれど、被災地を思えば仕方ない」。二宮さんは「4連覇を期待して

平成30年7月12日（木）



「被災地を思えば…」 出場予定の出場予定の短大生複雑な状況下では仕方ない」と受け止める声が続出した。市民からは「開催を心待ちにしていたが、災害が起きた。」「わじまガイヤカーニバル」30周年の今年は宇和島青年会議所のメンバーを中心に、機材の設置や学校単位での参加を呼び掛けるなど準備してきた。「やりたい気持ちでいっぱいだけど、自分たちの力ではどうしようもない。」「山本浅幸校長は「苦しんでいる地域のことを思った結果の判断だろう」と理解を示し、8月に祝祭地区の納涼祭を盛り上げるか検討しているとした。

学校単位では宇和津小、城東中、宇和島南中等教育学校がエントリーしていた。城東中は10日に衣装のTシャツが完成したばかりだったが、出演は来年に持ち越し。山本浅幸校長は「苦しんでいる地域のことを思った結果の判断だろう」と理解を示し、8月に祝祭地区の納涼祭を盛り上げるか検討しているとした。

南予の道路復旧へ力

国交省松山河川国道事務所



南予での活動に向け出発式に臨むオペレーターら
—11日午前、松山市東石井4丁目

国土交通省松山河川国道事務所は11日、豪雨災害に伴う南予の道路復旧に向け、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORE）7人と、維持出張所であった出発式災害対策用車両3台を派遣して、作業指示に当たると

緊急派遣隊7人被災地へ

同孝寛さん(34)が「被災地の方が一刻も早く日常生活に戻れるよう道路清掃作業に励みたい」と話した。一方、国交省は11日、土砂災害専門家（TEC-FORE）高度技術指導員を派遣。ヘリコプターで上空から、被害が大きかった今治市の島しょ部や松山市の松和島、宇和島市吉田町を中心に調査した。

平成30年7月12日(木)

自衛隊が設置した風呂につきり、ゆったりする利用者
—12日午後、宇和島市吉田町東小路



大きな浴槽ほっと一息

宇和島・吉田 陸自が風呂設置

宇和島市吉田町東小路の吉田公民館前の広場に12日、西日本豪雨の生活支援で派遣されている陸上自衛隊第5後方支援隊補給中隊（北海道帯広市）が風呂を設置した。被災者らがさっそく疲れを癒やした。

シャワーだけの利用を合わせると一度に最大30人程度の利用が可能で、午後1時ごろから避難者やボランティアらが訪れた。大きな浴槽に入って肩までゆっくと40度前後のお湯につかり、一息ついた。

災害以来初めての入浴だった宇和島市吉田町東小路の自営業中川賢治さん(40)は「ずっとシャワーで我慢してきたので本当に気持ちいい。毎日入りたい」とほっとした様子。同隊の岩元直哉2等陸尉(27)は「一刻も早い復興の手助けになればうれしい。たくさんの方に遠慮なく利用していただきたい」と呼び掛けた。

利用は午後1～9時で、タオルなどが必要。市内ではほかに、同市吉田町の深浦トンネル近くの国道378号沿いの空き地にも自衛隊が風呂を設けている。

(石田一真)

平成30年7月13日(金)



吉田中学校の調理室に落ちた泥を掃除する高校生
—11日午前9時50分ごろ、宇和島市吉田町鶴間新

宇和島・吉田中

卒業生らが校舎を清掃

浸水被害を受けた吉田中学校（宇和島市吉田町鶴間新）では、同校出身の高校生らが校舎の清掃に動いた。同校は7日朝に近くの川が氾濫した影響で、敷地内に大量の泥水が流入。校舎1階と体育館がほぼ水に漬かった。生徒は教職員や中学生と協力して泥を運び出した。ブラシや高圧洗浄機で教室の床にこびり付いた泥を取り除いたり、一日も早い復旧を願った。

平成30年7月12日(木)

炎天下 奉仕に汗

地域や母校のピンチを救え。豪雨で多大な被害を受けた県内各地で11日、住民らが泥まみれになりながら土砂撤去などのボランティア活動に汗を流した。

(石田一真)

宇和島市

【水道・断水地域】(12日正午現在)
6568戸(1万5317人)

【給水】(吉田、三洲地域)
吉田支所(午前7時～午後10時)
J A えひめ南玉津支所、奥南小、喜佐方公民館、J A 立間中央支所、吉田町駐車三ツ尾三叉路、南君東野球場(以上、午前7時～午後8時)吉田小(午前7時～午後5時)三洲中(午前7時～午後10時)道の駅みま、二名小、基幹集落センター、吾森集会所(以上、午前7時～午後8時)

【入浴施設】
道の駅「津島やすらぎの里」(午前10時～午後10時) 高月温泉(鬼北町、16日まで無料、午前11時～午後9時) 吉田支所前テニスコートと宮ノ浦西小深浦(自衛隊による入浴支援、午後1～9時) 有料老人ホームゆずの家(午後2～9時) おだしい庵(鬼北町、午前10時半～午後2時) ゆらり内海(愛南町、31日まで無料、午前11時～午後10時) 山出憩いの里温泉(愛南町、31日まで無料、午前10時～午後9時)

【シャワー施設】
市総合体育館(午前9時～午後10時) 津島勤労者体育センター(午前11時～午後9時) 津島プレランド(午前9時～午後9時) 鬼北総合体育館(鬼北町、午前9時半～午後9時半) フィットネスクラブVISTAR(午前10時～午後10時) —土日祝日は午後5時まで) スポーツクラブ@style(午前9時～午後9時)

【シャワー施設】
市総合体育館(午前9時～午後10時) 津島勤労者体育センター(午前11時～午後9時) 津島プレランド(午前9時～午後9時) 鬼北総合体育館(鬼北町、午前9時半～午後9時半) フィットネスクラブVISTAR(午前10時～午後10時) —土日祝日は午後5時まで) スポーツクラブ@style(午前9時～午後9時)

【シャワー施設】
市総合体育館(午前9時～午後10時) 津島勤労者体育センター(午前11時～午後9時) 津島プレランド(午前9時～午後9時) 鬼北総合体育館(鬼北町、午前9時半～午後9時半) フィットネスクラブVISTAR(午前10時～午後10時) —土日祝日は午後5時まで) スポーツクラブ@style(午前9時～午後9時)

【シャワー施設】
市総合体育館(午前9時～午後10時) 津島勤労者体育センター(午前11時～午後9時) 津島プレランド(午前9時～午後9時) 鬼北総合体育館(鬼北町、午前9時半～午後9時半) フィットネスクラブVISTAR(午前10時～午後10時) —土日祝日は午後5時まで) スポーツクラブ@style(午前9時～午後9時)

平成30年7月13日(金)

県内豪雨災害

児童再会 戻った笑顔

宇和島・吉田2小学校 授業再開

豪雨災害の影響で休校していた宇和島市吉田地域の2小学校が12日、授業を再開した。児童は元気な姿で登校し、校舎に子どもたちの明るい声が戻ってきた。

(1面参照)

同市吉田町沖村の喜佐方小では、校舎1階の一部が床下約20センチ浸水するなどしたが、教職員やボランティアらが懸命に清掃し、復旧のめどが立った。

12日は午前8時すぎから同校の全校児童41人が保護者と登校。2年生の教室では、朝のホームルームで担任が児童の体調を確認した後、みんなでハイタッチをしながらあいさつを交わしたり、大きな声で合唱したりして再会を喜び合った。全校集会では牛川朝朗校長が「友達と手をとり合って仲良く、おうちの人や



友達とハイタッチしてあいさつする喜佐方小学校の児童
12日午前8時半ごろ、宇和島市吉田町沖村

地域の人が助け合ってくれた」「友達に会えてすごく楽しい。周りの人が笑顔になり、グラウンドでいっぱい遊ぶように、みんなで頑張り、体を動かしたい」とこまじり。保護者の農業研修清文さん(41)は「小学校が再開

して一安心。子どもたちのストレスが少しでも軽減できれば」と話した。市教育委員会学校教育課によると、12日に授業が再開した奥瀬小では、全校児童50人のうち47人が登校した。今後、各校に児童の心のケアを目的にスクールカウンセラーを派遣するほか、簡易トイレを設置する予定。

(石田一真)

宇和島・吉田 東蓮寺ダムに 取水ポンプ設置

JAえひめ南

豪雨災害で農作業が困難になった農家を支援しようと、JAえひめ南は12日、宇和島市吉田町沖村の東蓮寺ダムに取水用のポンプ2機を設置した。

同JAによると、管内のかんきつ圃地約2140畝



JAえひめ南が東蓮寺ダムに設置した取水用ポンプ

のうち、推定1割が土砂崩れなどで農地や農道が崩壊したほか、半数程度の農地でスプリンクラーの配管が壊れたり、農機具やモノトラックが破損したりするなどの被害報告を受けている。

ダムに設けたポンプは誰でも利用可能で、しばらくの間設置する。宇和島共同選果場(同市伊吹町)へも計画している。

同JAは「農作物に対する被害を食い止めるために使ってもらいたい」としている。

(石田一真)

平成30年7月13日(金)

平成30年7月13日(金)

県内豪雨災害

谷筋で表層崩壊

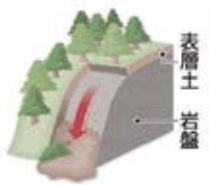
愛媛大 宇和島・吉田の発災分析

県内の被災地で調査を進める愛媛大防災情報研究センターの森伸一郎准教授(災害学)は、宇和島市吉田町で複数の死者を出した土砂災害について「水が集中しやすい谷筋を中心に起きた表層崩壊が多い」と分析、「谷の両側から集まった大量の水と土が土石流となり、民家に大きな被害を与えた」と推測する。

(1面参照)

森准教授や同大学院理

表層崩壊



工学研究科の安原英明教授(岩盤工学)によると、表層崩壊は岩盤の上の表土が崩れる現象で、台風など豪雨時に多い。岩盤は水を通さないため、表土が大量の雨を蓄えて浮き、その隙間にさらに水が流れ込むことで表土の厚さや地質などが

まざまな要因が影響する」と表層崩壊を起こした背景を推測する。土砂災害が相次いだ松山、今治両市などの表層は、水を含むと崩れやすい。「まさ王丸が、関東から近畿、四国の北側を東西に横断する中央構造線の南側は場所により地質は異なるという。安原教授は「まさ王丸」なども、大量の雨を原因とした表層崩壊はどこでも起りうる。警戒区域でない場所でも土砂崩れは起きしており、今後の調査で詳細を明らかにしたい」としている。

(伊藤絵美)

平成30年7月14日(土)



「何が起きたのか分からなかった。助かったのが不思議なくらい」。西日本豪雨で自宅が被害を受けた宇和島市三間町川之内の農業、岡崎行馬さん(69)は家族5人、命からがら逃げた当時を、こう表現した。

生活再建 先見えず

宇和島・三間

「前向きに」言い聞かせ

家の裏手に出る道路が、7日朝、岡崎さん(69)の1階で9歳の長男と2歳の次男とを連れていた。突然、土砂が降り注ぎ、何が何だか分からない。何が起きたのか分からなかった。助かったのが不思議なくらい。西日本豪雨で自宅が被害を受けた宇和島市三間町川之内の農業、岡崎行馬さん(69)は家族5人、命からがら逃げた当時を、こう表現した。

平成30年7月14日(土)

家の裏手に出る道路が、7日朝、岡崎さん(69)の1階で9歳の長男と2歳の次男とを連れていた。突然、土砂が降り注ぎ、何が何だか分からない。何が起きたのか分からなかった。助かったのが不思議なくらい。西日本豪雨で自宅が被害を受けた宇和島市三間町川之内の農業、岡崎行馬さん(69)は家族5人、命からがら逃げた当時を、こう表現した。



家を取り囲む土砂を見つめる岡崎昭美さん。除去作業が続いている。14日午前11時35分ごろ、宇和島市古田町鶴間新(画像の一部を加工しています)

2階避難 救助に「感謝」

民家に土砂 夫婦で一夜

宇和島 吉田

7日早朝、宇和島市吉田町鶴間新で起きた土砂崩れで民家の1階が埋まり、中にいた夫婦2人が閉じ込められた。家の周囲はぬかるんだ泥に囲まれ、丸1日たった8日朝、ようやく助け出された。

◆宇和島理容組合「シャンプー無料サービス」 県理容生活衛生同業組合宇和島支部(船岡定支部長)は17日から、西日本豪雨の影響で断水が続く宇和島市の吉田町と三間町の住民を対象にシャンプーの無料サービスを始める。8月末までの予定。実施は旧市内の26店舗で、目印として「宇和島理容組合」のポスターを掲示している。全店共通の午前9時〜午後6時で、日曜と第1、3月曜は定休。身分証明の提示は不要。

平成30年7月15日(日)

平成30年7月15日(日)

特定非常災害に指定 豪雨で初政府

政府は14日、西日本豪雨を「特定非常災害」に指定した。被災してさまざまな行政手続きができなくなった住民を救済するのが目

た非常災害対策本部会合で「被災者の権利を守るため指定する」と述べた。

14日の持ち回り閣議で閣連政令を決定し、同日公布

・施行した。政府は自治体の復旧事業で国の補助率を引き上げる「激甚災害」の指定手続きも進めており、被災地支援の態勢整備を急

る方針も示した。

平成30年7月15日(日)
愛媛新聞記事(共同通信配信)

宇和島市

【水道・断水地域】(14日正午現在) 6413戸(1万4977人)

【給水】(吉田、三間地域)
吉田支所(午前7時～午後10時) J Aえひめ南玉津支所、奥南小、喜佐方公民館、J A立間中央支所、吉田町畦屋三ツ尾三叉路、南君東野積場、J R吉田駅、河内上公民館、白浦共選場、立間第5分団1部消防詰所前、玉津公民館(以上、午前7時～午後8時) 吉田小(午前7時～午後5時)三間中(午前7時～午後10時)道の駅みま、二名小、基幹集落センター、告森集会所、コスモスホール三間、J R二名駅、三間町隣保館(以上、午前7時～午後8時)

生活用水(飲用不可。トイレや清掃などに使用)は、吉田支所、奥南小、J Aえひめ南吉田支所、吉田図書館駐車場、元J Aえひめ南牛川委託店、喜佐方公民館、道の駅みま、二名小、成妙保育園(駐車場)で配布

【入浴施設】

道の駅「津島やすらぎの里」(午前10時～午後10時。三間町、吉田町の住民対象の無料送迎バスを1日4便運行)高月温泉(鬼北町、16日まで無料、午前11時～午後9時)吉田支所前ダテ広場と宮ノ浦西小深浦(自衛隊による入浴支援、午後1～9時)はま湯(西予市、午前11時～午後9時)有料老人ホームゆずの家(午後2～9時)おだいし庵(鬼北町、午前10時半～午後2時)グループホームいぶき(午後1～6時)有料老人ホームながぼり(午後1～3時)ゆらり内海(愛南町、31日まで無料、午前11時～午後10時)山出憩いの里温泉(愛南町、31日まで無料、午前10時～午後9時)つるの湯(午後2時半～10時)大黒湯(午後3時15分～10時)松乃湯(午後3時～11時半)ほかに、宇和島地区広域事務組合が運営する施設を無料開放しているが、利用には事前連絡が必要

【シャワー施設】

市総合体育館(午前9時～午後10時)

津島勤労者体育センター(午前11時～午後9時)津島プレーランド(午前9時～午後9時)鬼北総合公園シャワー室(鬼北町、午前9時半～午後9時半)フィットネスクラブVISTAR(午前10時～午後10時＝土日・祝日は午後5時まで)クレール&フィール菅原(女性シャワー室のみ、午前9時～午後5時)

【ごみ収集】

一般ごみ 通常通り(収集に行けない一部場所は後日対応)▽災害ごみ 大浦地区埋立地

【就学前児童預かり】(吉田地域)

31日までの午前9時～午後4時、吉田愛児園。保育所などに入所していない就学前児童は月一土曜(祝日を除く)、就学前児童は日曜祝日に実施。無料。開所時間内に児童を連れて行く(当日受け付け可能)。着替え一式、紙おむつ、おしりふき、タオル、飲み物(水・お茶)、哺乳瓶、ナイロン袋などを持参

【三間、吉田地域無料巡回バス】

宇和島市の吉田・三間地域を巡回する無料バスが8月31日まで運行中。両地域の住民のうち、移動手段のない高齢者、障害者と補助者、中学生以下の子ども(保護者同伴)が対象。時刻表は次の通り

吉田地域	巡回バス1 定員10人			
	午前1便	午前2便	午後1便	午後2便
吉田支所	8:30	11:50	15:15	18:15
喜佐方公民館	8:45	12:05	15:30	18:30
立間警察官連絡所前	8:55	12:15	15:40	18:40
吉田病院	9:05	12:25	15:50	18:50
吉田支所	9:10	12:30	15:55	18:55

吉田地域	巡回バス2 定員20人			
	午前1便	午前2便	午後1便	午後2便
吉田支所	8:30	11:50	15:10	18:10
奥南公民館	8:45	12:05	15:25	18:25
西南君バス停留所	8:50	12:10	15:30	18:30
立目バス停留所	8:55	12:15	15:35	18:35
浅川バス停留所	9:00	12:20	15:40	18:40
吉田公園	9:05	12:25	15:45	18:45
吉田小学校	9:10	12:30	15:50	18:50
吉田支所	9:15	12:35	15:55	18:55

三間地域	巡回バス 定員25人			
	午前1便	午前2便	午後1便	午後2便
コスモスホール三間	8:30	11:45	15:15	18:15
黒井地公民館	8:35	11:50	15:20	18:20
仏木寺	8:40	11:55	15:25	18:25
道の駅みま	8:45	12:00	15:30	18:30
JA二名支所	8:55	12:10	15:40	18:40
JA告森支所	9:00	12:15	15:45	18:45
二名駅	9:10	12:25	15:55	18:55
コスモスホール三間	9:15	12:30	16:00	19:00

【問い合わせ】

市くらしの相談窓口☎0895(49)7109

災害ごみがあふれ、封鎖となった宇和島市吉田地区の駐車場を見つめる市職員
＝15日午後、宇和島市吉田町鶴間新



県内豪雨災害

ごみ仮置き場限界に

分別負担や悪臭 課題

冷蔵庫、いす、衣服…。広い範囲で浸水被害を受けた南予の被災地の仮置き場には、住宅などの片付けで出たごみが次々に運び込まれ、山積みになっている。最終処分場への搬出が進まない中、悪臭などの課題が浮上。作業する人の体力の限界も近づいている。

（1面参照）

「ごみがあふれてどうにもならない。河川氾濫で大きな被害を受けた宇和島市吉田町鶴間新の駐車場は、数日前からほぼ満杯状態だ。懸念されるのは、発火や悪臭。市職員が1人張り付き、搬入を一時封鎖している状態だ。」

市が呼び掛けるのは、町内から約10キロ離れた仮置き場（同市大浦）の利用。しかし、約10種類の分別が必要で、運び込む住民にとって大きな負担となる。同市吉田町沖村の40代主婦は「暑くて気力や体力が持たかねている中、分別を指示されるのはつらい」と嘆く。

西予市野村町でも、似た光景が広がる。災害直後の8日以降、市は町内に順次仮置き場を増やしたが「まだ少ない」（市担当者）。

ひっきりなしの搬入に加え、重機や車両も足りておらず、最終処分場へスムーズに運べない状況が続く。連日の炎天下。現場でトラックの荷台からごみを降ろす作業を担う市職員や消防団、ボランティアの疲れもピークに近い。14日は、県建設業協会が2トントラックなどで運搬を手伝ったが、危険を伴う作業を求め、専門家がいないので、専門家が知識のある人が必要」など課題も挙がる。

大洲市柚木の住宅街では、住民らが空き地にごみをまとめ、臨時仮置き場に搬出していった。近くの40代男性は「臭いが気になるので早く処理できれば」と願うが、量は一向に減らない。市職員は「今月中には市内のごみを仮置き場に入れたい」とするが、こどもも多い。課題は分別。現在4種類の分別は16日から4種類となり「運んだ後で分別は時間がかるので、なるべく分けてから搬入しても

「生活再建のためごみの処理が急がれるが、その大半は思い出の詰まった日用品。名残を惜しむ声も各地で聞かれた。」

大洲市若宮の運送業勤務森田利和さん（61）は自宅が浸水し、買ったばかりの冷蔵庫や家具類を処分した。軽トララックいっぱいの家財道具を、みの山に捨てながら「一番つらかったのは野球道具を捨てること」とつぶやく。愛用のバットやグラブは、息子との思い出の品。くしくもごみを捨ててきた仮置き場は、親子で訪れたこともある野球場だった。それでも「災害だから仕方ない」と話すと、作業を続けていた。

（宇和島、亀井映希、曾我しずく）

平成30年7月16日（月）

西日本豪雨

県内被災3市も未策定

災害ごみ処理初動遅れ

西日本豪雨の被災地で、自治体が災害ごみの処理計画を作っていないため、仮置き場の選定などごみ処理を巡り初動が遅れたケースがあることが16日、分かった。全国の市区町村のうち、処理計画策定済みの自治体は昨年3月時点で24%にとどまっていることも環境省の調査で判明。政府は今年6月、2025年度の策定率を60%に引き上げる目標を盛り込んだ基本計画を閣議決定したばかりで、前倒の実施も求められなかった。今回の災害ごみの量は数十万、100万近くになるとの見方もあり、近年の豪雨災害では最大規模になる見通し。

計画は災害ごみの処理方針を定めた「災害廃棄物処理計画」。自治体が仮置き場の候補地を決め、ごみの収集運搬方法を盛り込む。仮置き場の確保などに手配処理が滞れば生活再建の遅れにつながるため、同省が全国の自治体に早期の策定を要請している。環境省によると、全国で処理計画策定済みが24%にとどまるのは、災害対応の経験がある職員が少ないといった理由だという。処理計画を地域防災計画の中に入れて自治体も一部あるが、ほとんどが詳細に記述されていないという。単独で処理計画を策定している町村を対象に調査。その結果、策定済みは41.2%、自治体だった。

今回の被災地では、土砂崩れや川の氾濫で多くの死者が出た宇和島、西予、大洲の3市は処理計画を作っておらず、仮置き場の選定や他部署との連携に時間がかかるなどした。大洲市の担当者は「事前に策定していれば、被災直後や被災後1週間の段階ごとに、どの

ように動けばいいか想定できたと振り返る。広島県の呉市や熊野町なども未策定で、呉市の担当者「計画があればもっとスムーズに対応できた」と話した。

環境省によると、全国で処理計画策定済みが24%にとどまるのは、災害対応の経験がある職員が少ないといった理由だという。処理計画を地域防災計画の中に入れて自治体も一部あるが、ほとんどが詳細に記述されていないという。単独で処理計画を策定している町村を対象に調査。その結果、策定済みは41.2%、自治体だった。

平成30年7月17日（火）愛媛新聞記事（共同通信配信）

国道56号（宇和島—西予）再開

交通網回復へ前進

県内豪雨災害 避難所生活7市町451人



通行が可能となった国道56号。電光掲示板はトンネル内の片側通行を示している＝16日午後6時55分ごろ、宇和島市吉田町立間（撮影・宇和上翼）

豪雨災害後の3連休最終日となった16日、厳しい暑さに見舞われた県内の被災地では田舎に向け、住民やボランティアが片付けに汗を流した。斜面崩壊などで全面通行止めが続いていた国道56号（宇和島市吉田町白浦―西予市宇和町伊賀上）は、同日午後3時ごろに通行を再開。伊予市・宇和島間で運行を見合わせていたJR四国の予讃線も、17日から伊予市・八幡浜間（山回り）が再開する見通しとなり、交通網は徐々に回復しつつある。

（2）6・10面に開通記事

県災害対策本部の16日正午現在のまとめでは、宇和島市・上島町など6市町の計1万413世帯で断水が続ぎ、7市町の451人が避難所生活を送っている。死者は20人で、安否不明者は2人のままとなっている。

国土交通省大洲河川国道事務所によると、国道56号では、約900mの片側交互通行区間があるため通行には時間がかかること、「松山方面から宇和島以前へは松山自動車道も利用してほしい」と呼び掛けている。

農林漁業者らに対し、安倍晋三首相は16日、首相官邸で開いた非常災害対策本部の会議で、災害関連被害の

5年間無利子化などを含む支援策の第1弾を明らかにした。中村時広知事と松山市の野老亮仁市長は土砂崩れがあった市内の悠和島を視察したほか、中島も訪れ、ミカン園地の被害などを確認した。

3連休では大勢のボランティアが被災地入りし、住宅などの片付けを手伝った。県社会福祉協議会によると16日は西予市、大洲市など6市町に計1万5700人が訪れ、3日間で延べ約6160人が支援に当たった。

松山地方気象台によると、16日の最高気温は大洲市が36・5度の猛暑日、西予市が34・2度、宇和島市が32・7度の真夏日となった。愛媛新聞の午後3時現在のまとめでは、宇和島市で自宅のがれきを撤去していた男性と、大洲市のボランティアを含む計24人が熱中症で搬送された。

（豪雨災害取材班）



土砂崩れにあったかんきつ園地
＝15日午後、宇和島市吉田町法花津

ミカン畑根ごとぎ

急激（きゅうしゅん）な山嵐（やまがらし）の至る所で、山肌（やまがは）があらわになり、土砂（どろ）が崩れ落ちた。普段ならそこにあるはずの青々としたミカン畑が根ごとなくなっていた。

県内多数のミカン産地、宇和島市吉田町、愛媛（えひめ）県松山（まつやま）市などでは、200年以上の歴史がある。先人たちが急傾斜地（きゅうけいせんち）に切り開いてきた園地は、一夜の豪雨（ごうう）に内陸（ないりく）に被害を受けた。吉田町などが管内（管内）のJ-Aえひめ南（えひめみなみ）市は16日時点で、果樹園地約2千のうちの約1割で農地の甚大な被害が見込まれると、全青（せいせい）には至っていない。

海沿い（うみぎわ）の主要道（主要道）を通ると、自宅（自宅）の片付けや消防団（消防団）の活動（活動）も、山肌（山肌）があらわになり、土砂（土砂）が崩れ落ちた。普段ならそこにあるはずの青々としたミカン畑が根ごとなくなっていた。

「自分の園地がどうなっているか分からない」。別の30代の生産者は不安そうに話した。園地（園地）は、一夜の豪雨（豪雨）に内陸（内陸）に被害を受けた。吉田町などが管内（管内）のJ-Aえひめ南（えひめみなみ）市は16日時点で、果樹園地約2千のうちの約1割で農地の甚大な被害が見込まれると、全青（せいせい）には至っていない。

海沿い（うみぎわ）の主要道（主要道）を通ると、自宅（自宅）の片付けや消防団（消防団）の活動（活動）も、山肌（山肌）があらわになり、土砂（土砂）が崩れ落ちた。普段ならそこにあるはずの青々としたミカン畑が根ごとなくなっていた。

平成30年7月17日（火）

平成30年7月17日（火）

後継ぎ増えた矢先に…

ミカン産地被害甚大 宇和島・吉田

県内豪雨災害

（1面から続く）
津地区の被害状況を語った。15日午後、宇和島市吉田町法花津のJAえひめ南玉津共選場の一室。山本計夫共選長（65）は、国土地理院が豪雨災害後に撮影した航空写真を指し示し「圃地に茶色の線が入っている場所で土砂崩れが起こった。少なくとも耕地面積の2割程度ではないか」と玉



土砂崩れにあった圃地を指し示す山本計夫共選長。15日午後、宇和島市吉田町法花津

施設破損 品質に懸念

州ミカンを中心に約6千トあったが「今年ほどだけ減るかが分からない」と嘆く。共選場の真裏にある山本共選長の圃地も土砂崩れにあった。土砂に埋もれた苗木、地中にもき出しになったスプリンクラーの配管、無事だが摘果ができていない樹木。悲惨な光景を見つめ「情けない」とやきもたない表情だった。近年はかんきつの価格が安定し、20〜30代の後継者30〜40人が地元に戻ってきた。意欲的に改植もしてくれていた。にぎやかな地域になると思っていた矢先に、こんなことになると「高齢者は新たに苗木を植える気がなくなり、離農する可能性がある」と危惧した。共選場に山積みされた収穫用のキャリーに目をやり「毎年、最盛期にはキャリーが足りなくなるが、今年は余る

農道寸断 園地行けず

かもしれない」と声を震わせた。それでも「玉津の主力産地はミカン。地域はミカンの歩みで歩んできた。後ろを向かず、一歩ずつ前に進むしかない」と自分に言い聞かせていた。

喜佐方地区で約2珍のかんきつ園地を経営する大久保農園の大久保幸裕代表（38）。1日ほど浸水した自宅近くの農作業用倉庫を片付けながら「土砂崩れで農道が通れず、圃地の様子すら見に行けない」ともどかしさを口にした。

農園では温州ミカンや紅まどんな、甘平など約20品目を栽培。仮に被害がなくても農道が寸断されていれば、灌水

圃地の被害状況が分からず途方に暮れる中で、引き取り手の決まったかんきつジュースは希望の光。泥まみれになったジュースの瓶を手で拭いた。「何とかなる」と前を向いて

（渡部竜太郎）



浸水した倉庫で、かんきつジュースの瓶の泥を拭う大久保幸裕さん。15日午前、宇和島市吉田町河内

平成30年7月17日（火）

酷暑耐え 復旧へ全力

西日本豪雨で甚大な被害が出ている宇和島市では、3連休最終日の16日も多くのボランティアが気温30度を超える酷暑の中で復旧活動に尽力した。松山市から来た清掃業の守実洋明さん(30)と特別支援学校講師の嶋崎祐太さん(26)は、同市吉田町立間の山あいにある民家で、流れ込んだ土砂や家財の搬出作業にあたった。

2人は先にボランティア活動をした友人から被災地の厳しい状況を聞き、「少しでも手助けになれば」と仕事の休みを利用して参加した。災害ボランティアは初めて。暮らしが突然断たれた現場に「当たり前前に生活していたものが全てなくなっている。少しでも早い物理的な復旧が大切だ」と休憩を挟みながら約4時間作業をした。

物品を搬出しやすいよう、ふすまや土砂を除去し、住人の山口朋子さん(64)に捨てていい物と残す物を聞きながら作業をした。

宇和島・吉田 ボランティアに密着 民家で土砂・家財搬出



民家から土砂をかき出す作業をする嶋崎祐太さん
16日午後、宇和島市吉田町立間

せた。守実さんは一人の大切な物を捨てなければならぬ複雑だった。たくさんボランティアが参加して、未来は明るいんじゃない

「だるうか」とも。宇和島市社会福祉協議会によると、3連休中のボランティアは約1100人。地域福祉課の山本裕子課長は「大変な暑さや断水もある中、作業してもらってありがたい。引き続き応援をお願いしたい」と呼び掛けた。(薬師神亮太)

平成 30年 7月 17日 (火)



通行止めが解除になった国道56号を行き交う車両
=17日午前11時5分ごろ、宇和島市吉田町立間

通行再開で住民一息

国道56号 斜面崩壊 懸命復旧

豪雨災害による土砂崩れなどの影響で全面通行止めになっていた国道56号(宇和島市吉田町白浦―西予市宇和町伊賀上)が16日に通行を再開して一夜明けた17日、多くの乗用車や重機を載せたトラックなどが絶え間なく道路を行き交い、国道沿いに住む地域住民らもほっと一息ついている。国土交通省大洲河川国道事務所によると、国道56号では現在も約900メートルの片側交互交通区間があり、完全復旧のめどは立っていない。斜面崩壊などが起きた場所には鉄製の壁が設置され、作業員が暑さの中で復旧に取り組んでいる。

17日は午前中から松山方面に向かう宇和島自動車のバスや、荷台に救援物資を積んだ軽トラックなどが通行した。国道56号を挟んで向かいの山林斜面が土砂崩れの影響で、店舗前の道がふさがれたという和菓子製造販売「元祖キリン堂」(宇和島市吉田町立間)の奥野浩幸社長(56)は「2時はどうなるかと不安だったが、通行止めが解除になり良かった」と安堵(あんど)した。多くの商品が水に漬かったそうだが「交通の便も良くなったので、なるべく早く店を再開したい」と意欲を見せた。

ミカン園地や直売所などが被災した同所の農業系赤松直樹さん(50)は「農地に流れ込んだ土砂の撤去もお願いできれば」とさらなる支援を求めた。(石田一真)

平成 30年 7月 18日 (水)

サッカーをもう一度

県内豪雨



グラウンドにたまった災害ごみを運び出す吉田高サッカー部員
—13日午前、宇和島市吉田町鶴岡新

宇和島・吉田高練習場被災 部員ら復旧に懸命

宇和島市吉田町北小路の吉田高校のサッカー部が、豪雨災害の影響で練習場所を失い、8月に控えた大会出場に暗雲が立ちこめている。部員や教職員らはサッカーができる環境を整えようと、懸命に復旧作業に当たっている。(一面参照)

サッカー部は普段、同市吉田町鶴岡新にある吉田球場近くの同校第2グラウンドで部活動に励んでいた。同校によると、教職員が学校周辺の被災状況確認のためにグラウンドを訪れると、そばを流れる川が氾濫した影響で、一面に大量の土砂や木が散乱。敷地内にあったサッカー部と野球部の部室も浸水し、スパイクなど練習道具のほとんどが使えなくなり、ユニホームも泥だらけになってしまった。部員の中には自宅が床上浸水した生徒もいた。

同部1年の三好美英さん(15)は「こんな状況になるとは思ってなかった。これからどうなるんだろうと思った」と困惑した表情を浮かべる。10日から部員や教職員、保護者がたまった災害ごみの撤去作業を実施。大半を片付けたが、いまだに乾いた土砂がグラウンドに残った状態で、現時点で全体練習を再開するほどは立っていない。顧問の中川洋一教員(44)は「グラウンドを再度使うには、酒海や土の入れ替えなどが必要になりそう」と話す。

8月初めに市内で開催予定だった県内工業高校との親善大会が中止になったほか、同月下旬には全国高校選手権大会の南予地区予選も迫っている。しかし、現段階で参加の可否は不透明。中川教員は「出られるとしても、ぶっつけ本番になる可能性がある」と危機感を募らせる。部員の中には「なにか生徒たちを大会に出場させてあげたい」と願う。

主将の2年後藤颯風さん(16)は「もう一度みんながサッカーがしたい、みんなが協力して環境を整えた」と力を込めた。(石田一真)

平成30年7月18日(水)

第6章

災害を振り返って

宇和海豪雨で赤潮拡散 養殖魚4万3000匹へ死

県は17日、有喜ブランクの赤潮が6日からの豪雨で拡散し、宇和海北部と中部で養殖マダイやアサギ、スズキなど約4万9300匹がへい死したと発表した。被害額は約5119万円。6月中旬以降発生した赤潮の被害合計は6万2400匹、7633万円の被害額に上回った。

危険濃度(海水1リットル中干細胞を大幅に上回っており、予断を許さない状況という。県は引き続き関係機関と連携し漁場監視などをするとともに、餌止めや出荷作業の中止などを呼び掛けている。(渡辺純子)

平成30年7月18日(水)

宇和島・吉田 岩盤滑りで甚大被害 愛媛大2回目現地調査



住民が土砂崩れの犠牲となった現場を調査する森伸一郎准教授—18日午後、宇和島市吉田町白浦

愛媛大防災情報研究センターの森伸一郎准教授は18日、西日本豪雨で多数の死者を出した宇和島市吉田町の土砂災害現場を調査した。

風化した岩盤の割れ目に水が入って水圧がかかり、岩盤が滑り発生したことが甚大な被害の原因だと分析した。森准教授が吉田町に入る

のは発災後、2回目。18日は犠牲者が出た同町法津津と立間、白浦の現場3カ所を中心に調査。崩壊した斜面の頂部に登って滑り面の地質やその上部の地質構成などを調べた。土砂災害当日の降雨の状況や土砂崩れの前兆などについて、住民への聞き取りも行った。

森准教授は、初回の概要か」と語った。(中田知子)

平成30年7月19日(木)

水や物資輸送 被災地支援

宇和島の水産物卸売業者



イヨスイの活魚運搬車が運んだ生活用水を貯水タンクに移す老人ホームの職員。18日午後1時10分ごろ、宇和島市吉田町東小路

被災地支援で地元に戻返し。水産物卸売業のイヨスイ（宇和島市住吉町3丁目、荻原達也社長）が、豪雨災害に遭った県内自治体を回り、自社の活魚運搬車や大型トラックで生活用水や救援物資の輸送ボランティアを行っている。同社は「水産業者だからできる支援を続けていきたい」と話している。（1面参照）

同社は8日、南予への支援の輪を広げようと、会員制交流サイト（SNS）で

「未来 よしだ」を訪問。長は「断水が続いているの施設の貯水タンクに約13トンの生活用水を提供した後、者の入浴などに有効活用したい」と話した。同市吉田町南君の2集会所に生活用品を運送した。施設を運営する宇都宮弘佳社

「未来 よしだ」を訪問。長は「断水が続いているの施設の貯水タンクに約13トンの生活用水を提供した後、者の入浴などに有効活用したい」と話した。同市吉田町南君の2集会所に生活用品を運送した。施設を運営する宇都宮弘佳社

同社は8日、南予への支援の輪を広げようと、会員制交流サイト（SNS）で

平成30年7月19日（木）

職員1人宇和島常駐へ

農水省 豪雨災害 斎藤農相が現地視察

農水省 豪雨災害 斎藤農相が現地視察

斎藤健農林水産相は18日、西予、宇和島、大洲の3市を訪れ、豪雨被害を受けたミカン園地や農業関連施設などを視察した。農水省の職員1人を18日から宇和島市役所に常駐させると表明。（同市と）本省をつなぎ、現場でアドバイスできる人材面で協力していく姿勢を示した。（1面参照）

政府は16日に農林漁業者向けの支援策の第1弾をま

県みかん研究所で被害状況の説明を受ける斎藤健農林水産相（中央）18日午前、宇和島市吉田町法花津



ある大洲市新谷の県森林組合連合会の施設を訪れ、担当者から選別機や干しシイタケが浸水したとの報告を受けた。同市大洲の市民会館に移り、二宮隆久大洲市長、管家一夫西予市長と意見交換。斎藤農相は「（生

産者の）営農意欲が折れず、一人も脱落させないことを対策の肝としている」と訴え、両市長は人材や財政面での協力を要請した。

視察後、報道陣に対し斎藤農相は第1弾の支援策について「本来は被害状況が把握できていない中で対策は出さないが、今回は少しでも早く（生産者らに）安心してほしい」とし、昨年の九州北部豪雨を参考にまとめた説明。「対策が個々の農家に届くことが大事」と周知の重要性を語った。（渡部竜太郎）

平成30年7月19日（木）

「孤立解消」遠い実感

県内豪雨災害

豪雨災害の影響で通行止めになっていた県内の道路事情が徐々に改善する中、宇和島市吉田地域では住民

宇和島・吉田
奥白井谷地区

道路寸断 車通れず

住民「行政の解釈と差」



道路が壊れるなど深刻な被害を受けた奥白井谷地区
18日午後2時15分ごろ、宇和島市吉田町立間

にとつて孤立状態が解消したとは言えない状況が続く。同市吉田町立間の奥白井谷地区に向かうと、集落に通じる市道に土砂が流れ込んだ影響で、18日現在も車が通れない過酷な風景が広がっていた。
(1面参照)

山あいの道を奥へ奥へと進んだ同地区。住民による30人弱が生活、多くがかんきつ栽培などに従事しているという。

18日午後、集落への道は土砂に埋まった消防団のポンプ車が行く手を遮っていた。車を降りて歩き始めると、近々の農業者中井太一さん(40)が「7日朝に土石流で身動きが取れなくなったまま」と教えてくれた。現場ではポンプ車の撤去作業が始まっていた。

中井さんは同日午前6時すぎ、ポンプ車が動けなくなったと聞き、現場に駆け付けたが「着いたときにはどうしようもなかった。周囲で土砂崩れが相次ぎ、危険を感じて自宅2階から様子をつかがうと、徐々に白井谷川の水量が増え、民家やアスファルト舗装の道を破壊していった。中井さん

山あいの道を奥へ奥へと進んだ同地区。住民による30人弱が生活、多くがかんきつ栽培などに従事しているという。

10分ほど砂利道を上ってたどり着いた奥白井谷公民館の周囲には大量の土砂や木が散乱。川だったはずの場所には民家から落ちた瓦やひっくり返った車が散らばり、地面との見分けがつかなくなっていた。「一番奥にある民家は1階が土砂で流されたようで、今にも崩れ落ちそうな状態だった。同所の主婦薬師寺喜久美さん(70)方には、土砂に流された倉庫が直撃した。薬師寺さんは現在、近くの集会所で避難生活を送っているが、変わり果てた自宅を見つめ「これからどうしたらいいかわからない」と途方に暮れる。現在は夫や息子、ボランティアと家の片付けを進めるが、「み置き場まで運び出すのは不可

能。重機も集落に入り込めないため「元通りになるのはいつになるのか」と不安を募らせる。

県や市が発した被害状況によると17日現在、市内に孤立集落はない。市建設課は「乗用車が通行できないとしても、人が通れる場合は孤立集落には当てはまらない」との見解だが、同地区には道が流木や土砂で寸断し、歩くことすら難しい箇所が存在している。

自治会長を務める清家恒一さん(40)は「孤立集落について、住民の感じ方と行政の捉え方に差を感じ、道の復旧を目指し、ハート面でのスピーディーな支援を求めたい」と話した。
(石田一真)

平成30年7月19日(木)

第6章

災害を振り返って

元気出して支援の涼味



ひんやり冷えたそうめんを振る舞う高田さん(左)ら—18日正午ごろ、宇和島市吉田町東小路

宇和島・吉田有志、そうめん提供

涼味を味わって被災者らに元気になってもらおうと、内子町で飲食店経営などを営む有志が18日、避難所になっている宇和島市吉田町東小路の吉田公民館近くで、そうめんの炊き出しを行った。

男性有志は、ともに自営業の高田武志さん(38)と山口佳一さん(42)、道の駅「子フレッシュユパークからリ」のスタッフ宇都宮啓之さん(47)の3人。各自が大洲市や西予市などでボランティア活動をしていたが、得意分野で役に立ちたいと企画。冷たい料理が喜ばれるだろうと考え、17日から会員制交流サイト(SNS)でそうめんを募り、約100食分を集めた。

18日は正午から、知人で自営業の中川賢治さん方の一角を借りて炊き出し。ひんやりとした夏の味覚を避難所にいる人やボランティアスタッフに振る舞い、20分足らずで準備したそうめんが全てなくなった。からの出荷者などから集めたシューズや紙製品などの支援物資も避難所に贈った。

自宅が被災した宇和島市吉田町魚棚の無職女性(64)は「のどが良くておいしかった。暑い中でへとへとだったけれど力になった」と笑顔で完食。山口さんは「これからも個人やグループで支援を続けたい」と話した。
(石田一真)

平成30年7月20日(金)

吉田・三間に仮設浄水場

宇和島市

来月下旬にも通水試験

10月中旬に被災前水準目標



代替浄水施設の予定地を整備する作業員。19日午後1時40分ごろ、宇和島市吉田町立間

宇和島市は19日、吉田・三間両地域で続く断水の早期解消に向け、両地域に浄水施設を新たに整備すると発表した。機器搬入や水質検査などを経て、8月下旬ごろをめどに可能な地区から通水試験を始める。

(1面参照)

整備事業の主体は南予水の浄水施設を整備し、東海道企業団と市水道局、吉田地域などから借り受けた浄水施設を大内下集会所向かいの市有地(同市吉田町立間)に仮設する。必要経費は概算で計12億5千万円。三間地域は中山池自然公園(同市三間町黒井地)に仮設する。吉田地域は野村ダムを水源とし、企業団の南幹線路



代替浄水施設の概要について記者発表する岡原文彰市長。19日午前11時ごろ、宇和島市曙町

から取水して水道局の既存の配水管で送る。三間地域は、導水管を整備するまで同公園の農業用水を浄水装置を通して既存の配水管に送水する。

8月20日ごろから通水試験を実施。当初は最低限必要と見込まれる生活用水(計4100ト)を供給する。段階的に浄水装置を増強し、10月中旬に被災前のピークに相当する計5800トを給水する予定。飲み水として使える時期は、水質検査の結果次第という。

市によると、吉田地域の仮設浄水施設の設置場所は土砂災害警戒区域内。既存の配水管との立地関係や土地の広さなどを考慮した上で唯一の適地だったとし、「できる限りの防災対策を講じる」とした。

会見した岡原文彰市長は「一日も早い通水につながるよう、関係機関と連携して取り組む。完全通水までは、時間断水などの対応を考慮しなければならぬ」と話した。両地域では18日午後6時現在、計5121世帯(1万2043人)で断水が続いているという。(石田一真)

平成30年7月20日(金)

豪雨災害で土砂崩れや床上、床下浸水などが一気に起きた宇和島市吉田町沖村。河内川を挟んで吉田中学校に隣接する地区に、テントの立った家がある。ここを支援物資の中継地点として開放している主婦山下由美子さん(47)は、会員制交流サイト(SNS)を通じて情報を発

信。支援が必要な人と支援を希望する人とをつないできた。(1面参照)

県内豪雨災害

支援の輪つなぐSNS

日用品など多くの善意が寄せられている山下由美子さん(白の自宅)。隣は友澤祥子さん

11月15日午後、宇和島市吉田町沖村(撮影：宇和上翼)



ニーズ発信 自宅開放 物資中継 宇和島・吉田の主婦

第6章

災害を振り返って

山下さんによると7日朝、短時間に猛烈な雨が降り、水路や川がみるみるうちに増水。近隣に声を掛け、車を高い場所にある駐車場に移動した。雷のような音とともに土砂崩れが起こって山側からも水が流れ込み、近くの家の2階へ避難。自宅も「1階は胸ぐらいまで漬かった」という。

こうした状況をスマートフォンで撮影していた山下さんが画像や動画をフェイスブック(FB)に上げると「支援したい」「物資を送りたい」などの声が寄せられた。自宅を届いた物資の配給場所にして、近所の人々が気軽に取りに来られるようにした。

車が水没した家庭では歩いて給水所へ向かい、重い水を運んでいた。ともにフリーマーケットを主催する友人、友澤祥子さん(46)や鬼北町永野市が水道水を入れて持ってきてくれた、大量のペットボトルを庭に並べた。

FBの内容は拡散され、歯ブラシなどの生活必需品、服や靴、未開封の下着

など、さまざまな支援物資が集まった。ただ、日に日に必要な物は変わっていく。山下さんは立ち寄る人の希望を聞き、簡易書きにしてFBに記載。リアルタイムで支援を求めた。

移動手段のない人にはなかなか物資は届かない。イベントで知り合った人の親戚の男性が、車がなくて困っていることを知った。FBで呼び掛けて届いた自転車、少し離れた男性宅に持っていた。男性はその自転車で毎日のように顔を見せ、自身の近所の人たちが必要な物資を届けるなどしてくれた。

「何かしたいけど、させて」という声に、今は甘えた方がいいと思って。自宅の復旧もままならないまま始めた地域の拠点は、物資が集まるだけでなく、ご近所さんや支援をしたい人が立ち寄る場になった。体力的にも10日程度が限界と考えていたが「ここがなくなるまでびびり」との声も受け、もうひと踏ん張り運営を続けている。

(宇和上翼、梅木美和)

平成30年7月20日(金)

これまでに参加したボランティアのメッセージが書き込まれた宇和島市災害ボランティアセンターのボード—19日午後、同市住吉町1丁目



西日本豪雨

求むボランティア

宇和島市 受け入れ 全国に拡大

西日本豪雨で甚大な被害を受けた宇和島市で、災害ボランティアが不足している。市災害ボランティアセンター（住吉町1丁目）は当初、土砂崩れなどで道路が通行止めになったことから混乱を招かないよう受け入れ対象を市民限定としていたが、16日の国道56号の通行再開を受けて全国に拡大。「一人でも多く参加してもらえれば」と呼び掛けている。（1面参照）

ボランティアの受け入れは10日に開始。道路の通行状況を勘案しながら、個人の募集対象を市民限定から四国在住、全国へと徐々に広げた。

センターによると、14日の3連休は415人、374人、305人と平日より多くのボランティアが集まった。しかし、家屋の土砂撤去などの要望の急増に追いつかず、現在は住宅での作業に限って受け付け、店舗や倉庫などには手が回っていない。暑さで活動時間も限られ、1日では作業が完了しない家が多く、新規の要望には応えられていない状況という。

センターは、1日に400人のボランティアがいれば約50件に対応できると説明。現在多いのは土出し、ごみの片付けと搬出だが、今後断水が解消されれば水を使う片付け作業の依頼も増えるの見込み、より多くの参加を求めている。問い合わせは同センター専用回線＝電話0895（23）3781、0895（23）3782。（中田佐知子）

平成30年7月20日（金）

夏休み目標誓う

県内被災地など小中学校終業式



終業式で校歌を合唱する奥南小と吉田中の児童生徒
＝20日午前、宇和島市吉田町奥浦（撮影・石田一真）

県内のほとんどの公立小・中学生は17日から出身の3小中学校で20日、終業式があった。西日本豪雨の被災地では小中合同で式が行われるなどし、児童生徒が夏休みの目標などを語った。

（1面参照）

校舎が被災した吉田中（宇和島市吉田町鶴岡新の）泳記録会が中止になったことについて、児童は「残念だったけれど、2学期の陸上運動記録会に向けて体力を付けた」と夏休みの目標を発表した。宇都宮正広校長は「普段できないことにチャレンジし、後片付けなどの手伝いを頑張ってください」とあいさつした。

ホームルームで児童は担任から通信簿を受け取り、中学生は吉田中の荻原潤教頭が代読した西村久仁夫校長のメッセージを聞いた。吉田中3年奥野由衣さん（14）は「合同の終業式は珍しい経験。短い期間だったが顔見知りの先生もいて、楽しく過ごせた」と語り、奥南小1年山口正嗣君（6）は「おばあちゃんの家遊びに行くのが楽しみ」とわくわくしていた。

県教育委員会などによると、20日に終業式を行ったのは公立小267校、公立中123校。豪雨災害の影響で宇和島市の小学校1校は夏休み前の説明会を校区3カ所で開催した。大洲市の小中学校計11校は前倒しで夏休みに入っている。

（石田一真、中野貴衣）

平成30年7月21日（土）

斜面崩壊700カ所以上

愛媛大調査 県総数 広島匹敵か

豪雨災害 宇和島・法花津周辺

四日本豪雨の被害状況を調べる愛媛大災害調査団は20日、松山市文京町の同大で会見を開き、土砂災害で複数の死者が出た宇和島市吉田町の法花津周辺だけで少なくとも700カ所以上の斜面崩壊があったと報告した。航空写真による解析を進める法文学部の石黒諭士講師（地理学）は「これまで聞いたことがないような被害。県内全体では、5千カ所以上で発生した広島県に匹敵する数ではないか」としている。

（2～6・7・8面に関連記事）

石黒講師によると、解析は国土地理院が公開している11日時点の航空写真と2004年の写真を比較し、今回の豪雨災害で斜面崩壊が起きたとみられる場所を確認。作業が進んでいる法花津周辺の7・7平方キロの範囲に絞っても、少なくとも717カ所が表層の土砂流出や岩盤滑りを起こしていたという。

県内の被害調査をしている同大防災情報研究センターの森伸一郎准教授は、土砂崩れの多くは表層崩壊とみる一方、同市吉田地域で甚大な被害を出した一部は深さ5～7メートルに及ぶ比較

深い岩盤滑りだったと報告。大量の雨で岩盤内の水圧が高まり崩落につながったもので「南海トラフ地震が起きれば地震動による圧力で同じことが起こり得る。今後のリスク分析も非常に重要」と指摘した。

NPO法人建設技術支援センターや県技術士会などと中小河川による被害を調べたセンター長の森野亮教授は、吉田地域で土砂災害のほか、地元を流れる河内川の氾濫もあったと報告。「床上市々80センチが浸水した家もあった。川の氾濫水が来たと思っただけで、山の土砂も流れ出し「一気に氾濫水と重なって押し寄せた」と推察した。

また、浸水被害があったランテイアの必要性を調べる鬼北町地区の調査結果も示し、広島川の水位が上がったことで支流の大宿川から水が流れなくなり氾濫に繋がったと分析。「岡山県倉敷市の「真備町と同じレベルに大洲市、西予市などアクワオーター現象と思われれるものも起きている。人的被害はなくても、復旧に合わせた今後の分析に役立つ大きな支援が必要な地域は資料をまとめていく」として「たくさんある」と調査やホ

（伊藤純夫）

西日本豪雨による土砂崩れや浸水被害の調査状況を報告した愛媛大災害調査団＝20日午前、松山市文京町



宇和島市吉田町法花津周辺の斜面崩壊地の分布。国土地理院の航空写真を基に愛媛大災害調査団作成

伊達の縁 宇和島市に見舞金



宇和島市にお見舞い金などを贈った大崎市の伊藤康志市長(右から2人目)ら。20日午後、宇和島市役所

宮城・大崎市児童メッセージも

宮城県大崎市の伊藤康志市長が20日、姉妹都市の宇和島市を訪れ、お見舞い金約1750万円を贈った。宇和島市は、宇和島藩祖伊達秀宗の弟家泰が岩出山初代領主という歴史的結びつきから、1999年に旧岩出山町と姉妹都市提携を締結。2006年の同町と大崎市の合併後も継続し、11年には災害時の相互応援協定を結んでいる。

伊藤市長は豪雨で被災した宇和島市吉田地域を視察した後、佐藤和好議長らと市役所を訪れ、岡原文彰市長と面会し、「二度でも早い復旧、復興を願っている」と伝え、大崎市や同市議会、市民などから集まったお見舞い金の目録のほか、岩出山小学校児童からの応援メッセージを手渡した。伊藤市長は「東日本大震災や関東・東北豪雨で被災

した際、いち早く支援をしてもらった。次は私たちが恩を返したい」と述べ、災害に関するノウハウを持つ市職員の派遣などを検討しているとした。岡原市長は「被災者、避難者のために何かできるのかしっかりと考えた上で、有効活用したい」と述べた。(石田一真)

平成30年7月21日(土)

豪雨災害

罹災証明書申請 3840件

南予3市発行4件どまり

西日本豪雨から1週間が過ぎ、大洲、西予、宇和島の被災3市では、罹災(りさい)証明書の申請が計約3840件(20日現在)に上っていることが21日、分かった。ただ、膨大な件数や広範囲にわたる甚大な被害、人手不足などにより発行は4件にとどまる。県内外から応援職員の派遣も受け、早期発行に向けた作業

が本格化している。申請の内訳は大洲市約2400件、宇和島市約950件、西予市約490件。住宅の被害程度を証明する罹災証明書は被災者生活再建支援金の受け取りといった公的支援を受け取るために必要となる。大洲市の担当者は「公平性を期すために時間もかかっているが作業を進め、一刻も早く発行したい」とした。西予市災害対策本部は21日、降雨などで土砂災害の恐れがあるとして野村町河西の2世帯4人に避難指示を発令。市内の避難指示は84世帯206人になった。松山地方気象台は、沖縄を通過した台風10号の影響もあり、南から暖かく湿った空気が入るほか、大気の状態が不安定になりやすい

状況で、県内は山間部などで急な雨が降る可能性がある」と説明。「土壌に含まれている水分はなくなっていないが、激しい雨が降った場合は土砂災害に注意してほしい」と呼び掛けている。

平成30年7月22日(日)

西日本豪雨 24日「激甚」指定 首相 公民館など対象拡大

安倍晋三首相は21日、西日本豪雨による災害について、24日に激甚災害に指定すると表明した。国の補助率がかさ上げされる激甚災害の適用対象に公民館や図書館、私立学校も加える考えを示し、「自治体は財政措置を心配することなく、安心して迅速に復旧へ取り組みたい」と呼び掛けた。視察先の広島県呉市で記者団に述べた。(一面参照)

首相は、被災して休業を余儀なくされた企業や労働者の支援に向けて「実際には避難していても、職者とみなして手当を受けられるようにする」と述べた。これに先立ち三原市の避難所を訪れ、被災者を激励した。

広島市安芸区では住民の避難誘導中、土砂崩れで警察官2人が犠牲になった現場を視察し、黙とう。行方不明者の捜索を続ける自衛隊員や警察官をねぎらった。

激甚災害に指定されると、被災自治体が行う公共土木施設と農業関連施設の復旧事業に対する国の補助率が1.2割引き上げられる。

平成30年7月22日(日) 愛媛新聞記事(共同通信配信)

みなし仮設住宅 県内6市町

きょうから受け付け

県内豪雨災害

西日本豪雨で災害救助法が適用された県内6市町で23日から、みなし仮設住宅（民間賃貸住宅の借り上げ）所41カ所に計408人が避難を受け付けが始まる。県災

害対策本部のまとめ（22日正午現在）によると、宇和島や大洲など5市町の避難所41カ所に計408人が避難を受け付けが始まる。県災

7棟、床下浸水2308棟などとなっている。県によると、みなし仮設住宅の対象は今治、宇和島、大洲、西予4市と松野、鬼北両町。要件は、住宅が全壊や全焼、流失▽二次災害などの恐れやライフラインの途絶により長期居住めない▽半壊でも土砂や流木などで住宅として再利用できない▽など。

入居期間は2年間。県は最大月9万円（5人以上の世帯）の家賃補助を行うほか、礼金や仲介手数料などを限度額付きで負担する。空いている市営住宅を無償貸し出す西予市は22日、浸水被害があった野村地域で説明会を開いた。市災害対策本部によると、市全体で41戸分を用意し、うち14戸分は野村地域。最大で6カ月間の家賃、敷金を免除する。説明会には13世帯が参加した。

22日も厳しい暑さの中、復旧作業が続いた。宇和島市吉田町立間の住宅地では、自衛隊員らが重機を使って土砂を取り除いた。松山地方気象台によると、被災地では大洲で県内最高となる35.6度、西予市宇和で33.9度、宇和島で33.0度などを記録。23日も熱中症の危険が高くなる見込みで、気象台は小まめな水分補給などを呼び掛けている。

平成30年7月23日（月）



土砂が住宅地に流れ込んだ現場では重機を使った復旧作業が行われている—22日午前、宇和島市吉田町立間（撮影・森岡岳夢）

自衛隊支援 防衛相視察

被災の宇和島・西予

小野寺五典防衛相が22日、西日本豪雨で大きな被害を受けた宇和島、西予の両市を訪れた。被災地支援に当たっている自衛隊の活動を視察し、隊員を激励。「復旧までしっかりと対応する」との考えを示した。陸上自衛隊第14旅団災害派遣部隊によると、県内では約千人の隊員が給水や給食、入浴支援のほか、道路

の救援ルート確保などを行っている。小野寺防衛相は、西予市野村町野村の野村小学校での入浴支援、宇和島市吉田町立間の道路や川の土砂撤去、市立吉田病院（同市吉

田町北小路）への給水などの現場を視察。暑さに気を付け被災者に寄り添って活躍するよう隊員に指示し、握手を交わすなどして激励した。

小野寺防衛相は視察後、報道陣に対し「ますます暑い時期が続き、雨が降った場合の二次災害の不安もある。みなさんに安心感を持つてもらえるよう、自衛隊として最後まで支えていきたい」と話した。（森岡岳夢）

平成30年7月23日（月）



自衛隊員が川の土砂を撤去する現場を視察する小野寺五典防衛相（左）—22日午前、宇和島市吉田町立間

土居裕子さん「古里に歌で勇気を」

宇和島・吉田町小宮方 土居裕子さん

西日本豪雨の被害を受けた古里に歌で勇気を届けようと、宇和島市出身の歌手で女優の土居裕子さんが23日、同市吉田町野村の喜佐方小学校を訪れ、児童生徒らと励み合った。被災した子どもたちのために何かしたいと、土居さんが宇和島東高校時代の友人である市内の中学校関係者に相談。夏休みで開放している小学校で急ぎよ、交流の場を持つことになった。

同校立間小児童、吉田中の生徒ら約60人が体育館に集合。土居さんは自ら「紹介後、児童たちにもほのみのある唱歌「にじ」を歌い上げ、各校の校歌などを斉唱して心を通わせた。Tシャツが当たるじゃんけん大会や記念撮影も行い、会場は明るい声に包まれた。喜佐方小学校の校長岡田君は「はじめてもきれいな歌だった」と感動していた。

午後から土居さんは喜佐方地区の個人宅で講演会「ライブ」を行った。市役所も訪れ、玉田光昭市長に「コンサート会場などで集めた義援金を手渡した」。

土居さんは現在福岡ツアー中で、移動途中の22日に福岡、土砂崩れが発生した五津地区などの様子も目の当たりにしたという。「これからもコンサートでの募金活動などを通じて、宇和島手を応援したい」と話していた。（宇和島、石田一真）



交流後、子どもたちと記念撮影する土居裕子さん（中央）—23日午前、宇和島市吉田町野村

平成30年7月24日（火）

28自治体職員派遣

被災19市町に「対口支援」

制度化後初運用

大規模災害で被災した自治体の自治体を決めて職員を派遣する「対口(たいこう)支援」方式を活用し、西日本豪雨で甚大な被害を受けた広島、岡山、愛媛の3県に、19都道府県と9政令市から職員が派遣されたことが23日、総務省への取材で分かった。2016年の熊本地震で活用した際の成果や課題を踏まえて今春に制度化され、今回が初めての運用となる。

大規模災害では現地の自治体職員が被災する上、対策本部や避難所の運営、罹災(りさい)証明書等の発行など膨大な量の業務が短期間に集中する。直後から多くの職員が必要になるが、「対口支援」により、一部の自治体に支援が偏ること

西日本豪雨 広がる支援

お見舞金1020万円

宇和島市に贈る

宇和島市と姉妹協定を結んでいる北海道当別町の宮司正毅町長らが23日、同市を訪れてお見舞金など計約1020万円を渡した。岡市町は伊達家の縁で、2009年に姉妹都市協定を締結し、農産物や海産物のPR、販売などで交流している。11年に災害時の相互応援協定を結んでおり、今月8日には町から飲料水3トンの提供を受けた。市役所を訪れた宮司町長と後藤正洋町議会議長らは、玉田光彦副市長や清家康生市議会議長と面会。お見舞金の目録を手渡した後、玉田副市長から市内の被災状



宇和島市にお見舞金を贈った当別町の宮司正毅町長(左)と23日午後4時10分ごろ、宇和島市議町

平成30年7月24日(火)

県内3市に94人が応援

愛媛県のまとめ(23日正午現在)によると、県内では5県1市の計94人が大分、福岡、熊本4県から23人、大洲市が香川県から12人、また24日から松野町が長崎県の1人の応援を受ける予定という。宇和島市の担当者は「人手が不足している中でありたい。災害対応の経験者もおり、業務に役立つことを教えてもらっている」と感謝した。

島・宇和 避難発令基準引き下げ

二次災害備え 市が緊急計画策定

宇和島市は23日までに、西日本豪雨で土砂崩れなどの被害が多発した吉田地域で、今後の降雨による二次災害発生に備えるため「市吉田地区二次災害緊急避難計画(暫定)」を策定し、運用を始めた。避難勧告などの発令基準を従来より一段階早め、住民の速やかな行動を促す。計画は吉田地域全域を対象。国土交通省の土砂災害専門家の助言や市独自の調査を踏まえ、土砂崩れなどへの警戒が緊急的に必要な区域を「緊急警戒区域」に定めた。

同区域内では避難勧告などの発令基準を早め、これまで大雨警報(土砂災害)などを基準に発令していた「避難準備・高齢者等避難開始」を、大雨注意発表の時点で発令する。大雨警報(土砂災害)で「避難勧告」とし、土砂災害警戒情報で「避難指示(緊急)」を出す。指定地区は、御殿内▽浅川▽立百▽牛山▽南君▽大良▽沖村下(山平のみ)▽玉津(花組除く)▽立間

(石田一真)

平成30年7月24日(火) 愛媛新聞記事(共同通信配信)

豪雨日本西日 激甚災害に指定 政府復旧へ財政支援

政府は24日、西日本豪雨
なすの月20日〜7月10日
今国交地帯で起きた豪雨・暴
風雨による災害を激甚災害
に指定する政令を閣議決定
した。被災自治体は実施す
る道路や河川、農地などの
災害復旧事業で国庫補助率
を1.2割程度引き上げ、
財政負担を軽減する。公布
・施行は27日の予定。
(3)5・7・8面に関連
記事

内閣府によると、公共施
設などの災害復旧事業費の
査定定額が約3210億
円(18日時点)となり、
全国の都道府県や市町村の
標準収入総額の0.5%
(1799億円)を超える
など、激甚災害の指定基準
を回った。

愛媛県によると、農林水
産業など、国管理分を除く県
内の公共土木施設の合計被
害額が約771億円(24日
時点)となった。県は「調
査が進むにつれて被害額は
大きく増える」と見込まれ
るとしている。

農林水産業では、20日時
点から約20億円増えた約4
53億円で、うち農業が約
341億円、林業が約10
9億円、水産業が約3億
円だった。2004年の314
億円の約1.4倍となっ
た。

公共土木施設は約318
億円で、県が把握する19
53年以降発生した約19
億円の道路と同川が大半を占めて
おり、道路が約151億円、
河川が約134億円。
指定により、インフラの
ほか公民館や図書館、私立
学校などの復旧事業も補助
率が高まると見られる。事業
再建を図る中小企業が、金

機関から運搬資金や設備
復旧資金などの融資を受け
られやすくする措置を講じ

る。
菅義偉官房長官は記者会
見で「自治体には財政的な
心配なく安心して災害復旧
事業に迅速に取り組んでも
らえると考えている」と強
調した。また、小此木八郎
防災担当相は非常災害対策
本部の第12回会議で「まも
るべき被災者から3週間、被災

者に寄り添う気持ちで、住
まの確保やなりわいの再
建などの支援策に県や市町
村と密接に連携して対応し
てほしい」と指示した。
政府は14日、西日本豪雨
を豪雨災害としては初めて
「特定非常災害」に指定。
運搬費軽減更新など被災者
の行政手続きが特例で延長

平成30年7月25日(水)

岡原文彰市長(手前中央)らと三間地域の代替浄水施設整備予
定地を視察する中村時広知事(手前左)＝24日午後1時5分ご
ろ、宇和島市三間町黒井地



断水中の宇和島吉田・三間地域

代替浄水施設 工期短縮

宇和島市は24日、吉田、
三間地域で断水解消
に向けて整備している代替
浄水施設の工期短縮のめど
が立ち、8月下旬予定の通
水試験開始時期が同月上旬
に前倒しになったと明らか
にした。岡原文彰市長が同
日、市内などを視察した中
村時広知事との共同会見で
述べた。

工期短縮の要因として、
整備事業主体の南予水道企
業(企業長、岡原文彰市長)

来月上旬試験

とに対しては、浄水装置を
建屋で覆い、斜面沿いに鉄
筋コンクリート海りの擁壁
を設置するほか、土地のか
さ上げで対応するとしてい
る。

24日に中山湖自然公園で
会見した岡原文彰市長は「被災
者の生活安定、かきつ農
業の復旧復興に向けて関係
団体の協力をいただきなが
ら、先頭に立ち奮力で取り
組む」と決意を語った。

中村知事は、JR伊予吉
田駅や吉田地域の奥井井
谷地区を視察後、浄水施設
の設置予定地を訪問。整備
事業の進捗(しんちょう)
状況を確認し「長い期間
がかかると予想していた
が、大幅に工期が短縮で
きたのは(関係機関の)チ
ーム力にほかならない」と
評価した。(石田一真)

平成30年7月25日(水)

宇和島と西予の 道・川被害報告

国交省派遣隊

豪雨災害を受け、南予の
市町が管理する道路や河川
の被害状況を調査していた
国土交通省と内閣府による
緊急災害対策派遣隊は24
日、宇和島、西予の両市に
調査報告書を提出した。

豪雨では南予各地で土砂
災害などにより、道路や河川
の被害が多発。市町単独では
被害把握や復旧方法検討に
手が回らない状態のため、派
遣隊が9日から活動してい
る大洲市と愛南町にも、24
日まで報告書を提出した。

宇和島市では岡原文彰市
長に報告書を提出した。同



緊急災害対策派遣隊員から
報告を受ける宇和島市の岡
原文彰市長(左)＝24日午前
市役所(撮影 中田佐知子)

雨が多く、秋口になると台
風シーズンもやってくる。
復旧に早期に取り組むこと
が重要」と強調した。

市によると同市吉田町玉
津、立間、喜佐方の北側の
3地区内の市道と市管理河
川の調査を依頼。市調査分
と合わせ被害箇所数や被害
額の集計を進めている。

西予市では派遣隊は12
0カ所を対象に調査。岡東地
方整備局の担当者らが市役
所で、被害状況や復旧方法
の提案などを宗正弘副市長
に説明した。宗副市長は、今
後も技術的、財政的な支援を
お願いしたい」と要望。市に
よると市道被害は、18日時
点で把握できているだけで
約13億3450万円に上る。
(森田康裕、中田佐知子)

平成30年7月25日(水)

支援の手 復興へ一丸

南予各地に全国から

手薄な地域 食事提供



清家邦洋さん(右)に同じ「がな」を手渡す中田年徳さん。24日午後5時20分ごろ、宇和島市吉田町奥浦

宇和島 東京の男性や公民館協力

西日本豪雨災害で被災した宇和島市吉田地域の住民を支援しようと、全国から集まったボランティアが、支援が行き届いていない地区に向いて食事などを提供している。同市津島地域の公民館も活動をバックアップし、一丸となって復興を後押しする。(1面参照)

支援活動は、東京都川崎市の中田年徳さん(38)が中心となって実施。中田さんは熊本県と九州北部豪雨の際にも、被災地へ炊き出しなどを行って高城のNPO法人と共同でボランティアに助けた。豪雨災害後、同市出身の友人から被災状況聞いた中田さんは「何かしても力になれば」と翌日に宇和島入り。ボランティア同士のネットワークを通じて、被災直後から被災を一部開放していた津島公民館(同市津島町岩瀬)の存在を知り、同公民館を拠点にした奉仕活動を始め、中田さんは、ほかのボランティア参加者や津島地域の公民館関係者と協力して20日から炊き出しを開始。吉田地域に入りやすいたちと連絡を取り合い、炊き出しや物資などの支援が不足しがちな地区を回り、たこ焼きやそばなどの料理を提供してきた。24日には大洲市や大阪から集まったボランティア約10人とともに、持ち寄った食材で肉じゃがやマカロニサラダなどのメニュー約50食分を用意。他県公民館(同市吉田町奥浦)に生活用品や非常食などの支援物資と合わせて「夕食」を届けた。他県地区自治会長の清家邦洋さん(41)によると、同地区では土砂崩れの影響で床上浸水した家庭が多いという。「奥地だとなかなか支援の手も回らないので本当に感謝しかない」と笑顔を浮かべた。中田さんは「吉田地域は被害が広範囲にわたっており、長期的な支援が大切。今後も継続してボランティア活動をしたい」と話した。津島公民館は「これからもボランティアの方々の活動を力強くサポートしたい」としている。(石田一真)

平成30年7月26日(木)

宮崎の高校 缶詰贈る

合同実習縁 宇和島水産高通じ

航海訓練のため実習船「えひめ丸」で宮崎港に寄港した宇和島水産高校(宇和島市明倫町1丁目)の生徒が25日、宮崎海洋高校(宮崎市)に宮崎県内の企業から寄せられた備蓄缶詰を、豪雨で甚大な被害を受けた宇和島市に持ち帰った。支援は両校の縁によって実現し、関係者の思いを受け取った宇和島水産高生は被災者の生活に役立てられることを願っている。



宮崎で受け取った缶詰を運び入れる宇和島水産高生ら—25日午前、宇和島市伊吹町

缶詰は、宮崎海洋高と地元企業などが共同で開発したシイラの油漬け。「備蓄缶プロジェクト宮崎」として、被災地の支援物資として提供することに賛同した宮崎県内の企業や団体が購入し、各社で保管していた。同校によると、合同で実習を行うなど交流のあった宇和島水産高の地元が大きな被害を受けたことから支援を決め、回収への協力を呼び掛けた。

25日は、宇和島港に帰港した宇和島水産高の実習生が、宮崎で受け取った缶詰12個入り210缶を宇和島市伊吹町の市救援物資集配センターに運び入れた。今後、市内の避難所などに配布される。海洋技術科2年兵頭亜門さん(17)は「宮崎の皆さんの温かい気持ちと一緒に持ち帰ってきた。混乱とる。(中田佐知子)」

平成30年7月26日(木)

第6章

災害を振り返って

断水解消に力

宇和島・吉田
浄水装置届く



吉田地域の仮設浄水場予定地に運ばれた大型の浄水装置
＝26日午後、宇和島市吉田町立間（撮影・中田佐知子）

西日本豪雨で浄水場が壊滅的な被害を受けた宇和島市吉田地域で、断水の早期解消を目指す26日、代替浄水施設の予定地に大型の浄水装置などが運び込まれた。

整備予定地の同市吉田町立間の市有地には、自衛隊などが大型の浄水装置を運搬。大型浄水装置は東京五輪のカヌー競技で使用予定だったものを東京都から借り受け、1日1600トの

浄水が可能。同地には小型の浄水装置2台も既に届けられ、1台あたり1日500トを処理できる。

浄水施設の通水開始は8月上旬の見通し。整備事業主体の南予水道企業団によ

ると、当初は8月下旬の見通しだったが、必要機器の早期納入や浄水装置輸送の迅速化などで大きく前倒しが見込めるようになった。

今後ポンプなどが到着次

第、本格的な整備に着手する。岡原文彰市長は「関係各位の協力を得ながら、家の蛇口から水が出ることを切に待たれている方の思いに応えたい」と話した。

（宇和上翼）

平成30年7月27日（金）



床上浸水した家屋の消毒作業を実施する業者
＝26日午後、宇和島市吉田町西小路

西日本豪雨 床上浸水家屋60件消毒

宇和島・吉田 県内害虫駆除業者

西日本豪雨で被災した宇和島市吉田地域の感染症発生を抑制しようと県内の害虫駆除業者約10人が26日、現地に入り、床上浸水の被害を受けた約60件の消毒作業を実施した。

現地に入ったのは、防除専門業者が加盟する県ペス

トコントロール協会と県しるあり対策協会の各会員計約10人。県と両協会は2016年に大規模災害時の防疫業務に関する協定を結んでおり、県が協力を要請した。両会員の被災自治体の訪問は大洲、西予両市に続き3例目。

会員らは、泥出しや拭き掃除などが行われた床や床上浸水の跡が残る壁などに、車載の噴霧器をまいた。満遍なく消毒液をまいた。同市吉田町西小路の70代男性は「ボランティアに加え、消毒に来てくれた皆さんのおかげで何とか立ち直れそう。苦難は多いが頑張らない」と話していた。消毒は27日も実施予定。

（宇和上翼）

平成30年7月27日（金）

土砂崩れ かんきつ農作業困難に ドローンで農薬散布実験

宇和島市



農薬を搭載し、浮上する大型ドローン
＝27日午前、宇和島市吉田町沖村

西日本豪雨で被害を受けたかんきつ類の農作業に役立てようと、宇和島市は27日、同市吉田町沖村のミカン畑で小型無人機「ドローン」による農薬散布実験を行った。

市農林課によると、夏場はミカンの黒点防止のため農薬を散布する必要がある

散布は約10分で完了した。同地でミカンを栽培する農薬清水武尊さん(40)は「農道などが豪雨で壊れ、

が、土砂崩れによるスプリングクラー故障や農道の崩壊などで、作業が難しい場所が多発しているという。実験は市と災害時の協力協定を結ぶ調査・計測会社「スカイ・ジョイント」(鬼北町川上)に依頼。大型のドローンなどを使い、早生(わせ)ミカンの畑約1千平方メートルで実施した。2機のドローンを使用。農薬約4リットルを大型機で散布し、さらに上空を飛行する中型のドローンで作業状況を撮影した。

作業は正直あきらめていた。少し希望が見えた」と話していた。同課は今後、ドローンを使ったかんきつ類の農薬散布を前向きに検討していく方針。

(宇和上翼)

平成30年7月28日(土)

松山―宇和島 無料送迎バス



宇和島市で災害ボランティアの作業をするためバスに乗る参加者―27日朝、松山市堀之内

西日本豪雨の宇和島市でのボランティア活動支援のためは27日、松山―宇和島間で無料送迎バスの運行を始めた。被災地の力になるべく、27日朝、松山市堀之内に集まった13〜69歳の

52人が早朝、松山市堀之内の城山公園を出発した。8月12日まで毎日運行予定。27日は帽子を被りリュックを背負った希望者が午前7時の受け付け前に続々集合。柔道部仲間らと一緒に愛光高1年山下将馬さん(16)は「被災者は体力でも精神面でも大変と思うので助けになりたい」と話し、松山市の老人ホーム職員渡部浩二さん(57)は「被災地に知人もいる。何か力になれば」と意気込んだ。一行は宇和島市災害ボランティアセンター(住吉町1丁目)に到着後、作業内容の説明を聞き、土砂災害が多数発生した吉田地域へ移動。センターの担当者は、現地は断水で泥のかき出しが困難な地区や、最近まで通行不能だった現場がある」と説明。「ニーズはたくさんあり、(バスは)とても助かる」と話した。

運行情報は県ホームページなどに記載。前日午後5時までに申し込みが必要で問い合わせは松山市社会福祉協議会(電話089(921)2141)。

28日は運行予定だが、宇和島市に大雨注意報が発令された時点で作業を中止する。29日は台風の影響で運行を中止する。(松本尚也)

平成30年7月28日(土)

宇和島市補正47億8457万円

合併以降で最高額か

宇和島市は30日、西日本豪雨からの速やかな復旧を促すため、31日開催の臨時議会に提出する一般会計補正予算47億8457万円（累計504億2571万円）などを議案として、18日に専決処分した水道事業会計補正予算3億2591万円を含む報告2件を議決した。市は「補正予算と合併以降、最高額に達する」と説明する。被災者の救済や生活支援に活用される。被災者の救済や生活支援に活用される。被災者の救済や生活支援に活用される。

被災地強まる警戒

西日本豪雨の爪痕が依然生々しく、宇和島市の吉田地域、被爆した住民に道い打ちを掛けるように台風12号が接近した28日、市は避難勧告などの発令基準を従来より一段階早めた「市吉田地区二次災害緊急避難計画（暫定）」を初めて適用し、土砂崩れなどへの警戒が緊急的に必要な「緊急警戒区域」に避難準備・高齢者等避難開始を発表。開設された避難所にはお年寄りらが早速身を寄せ、台風と復旧作業の行方を案じた。

宇和島市 台風接近で避難所開設 高齢者ら一足早く備え

市は午後3時の緊急命令発令の直後、市内全域で避難所を開設し、高齢者ら一足早く備え、避難所開設を促した。避難所開設を促した。避難所開設を促した。



台風接近に備え、緊急避難所開設に身を案する宇和島市吉田地区の住民。避難所開設を促した。避難所開設を促した。

避難所開設を促した。避難所開設を促した。避難所開設を促した。

250万円、産業などの復興支援に1億200万円を充て、被災農家の作物の生育回復や被害予防を支援するほか、中小企業の事業所復旧工事などの必要経費を助成する。財源には財政調整基金1億3982万円のほか、県支出金10億9887万円、市債8億4900万円、国庫支出金6億448万円などを用いる。西日本豪雨災害関連の業務に従事する任期付職員採用に関する条例案も提出する。（石田一真）

平成30年7月31日（火）

平成30年7月29日（日）

県内豪雨災害

園児包む支援の輪

宇和島・吉田の幼稚園・保育園。園児を包む支援の輪が広がっている。被災者への支援を促している。



再開した村井幼稚園の室内で、支援を受けたおもち〜などで遊ぶ園児。27日午後、宇和島市吉田町西小路。

復旧作業応援や物資の差し入れ 続く「非日常」ケア課題

被災地では、復旧作業の応援や物資の差し入れが続いている。被災者へのケア課題が続いている。



園の前の土地が土砂やがれき置き場となっている奥南保育園(奥)。24日午後、宇和島市吉田町奥南。

平成30年7月30日（月）

西日本豪雨

卯之町―宇和島9月再開

JR四国全線復旧へ費用20億円

JR四国は30日、西日本豪雨で被災し、運転再開のめどが立っていないかった予讃線の卯之町―宇和島間を9月中旬に再開すると発表した。不通区間の香川・観音寺―本山間は8月9日に、伊予市―伊予大洲間(海回り)と宇土線は同日に順次再開することを決め、卯之町―宇和島間が再開すれば全線が復旧する。また被災し、線路の復旧費用が過去の番目となる約20億円によるとの見通しも明らかにした。(3・5・6・10・14面に関連記事)

西日本豪雨による不通区間の運転再開時期を発表するJR四国の半井真司社長(30日午前、高松市)



同社によると、被災した「卯之町―宇和島間」を動かすケーブルが損傷するなど被害が大きかった。これまで復旧時期を見送ってきたが、高松市の本社で会見した半井真司社長は「重機を搬入する進入路の確保や資材調達にめどが立った」と説明し、8月から本格的な復旧工事に取掛かるとした。

伊予市―伊予大洲間(海回り)と宇土線の再開時期については、これまで「2カ月後」としてきたが、復旧までの期間が大幅に短縮された。観音寺―本山間の被災した鉄橋(香川県三豊市)は、傾いた橋脚の前後



に仮の橋脚を付けて補強することで復旧した上で、時速25kmで徐行運転(通常は130km)するとしている。(四国新聞)

年度内に本復旧を完了したい考え。復旧費用に加え、複数の区間で不通が続いていることで、収入面で影響が出ている。7月の運賃収入(定期券除く)はこれまでのところ、前年比70%程度に落ち込んでおり、約10億円の減収を見込んでいる。また松山―伊予大洲・八幡浜間を海回りで走る観光列車「伊予灘ものがたり」は8月24日に再開予定。

平成30年7月31日(火)

経営相談スタート

宇和島・西予の支援センター
国や県の補助事業紹介

県やJAなどの南、宇和島市などで構成する国、市農産支援センターは30日、同市吉田町立間の一軒家に開設した農産支援センターで、被災した農家を対象にした農業経営相談を始めた。8月31日まで。

被災した農家の現状を把握し、農道やトラクター1施設あたりの適切な対策を提示する。確認がとれない箇所も再建にむけて手助けをしようとする。同JAにあわせて、23日現在、組合員のかんきつ面積が2140㌦あり、129人が一人ずつ1畝に对应した。担当者は被災状況を細かく聞き取り、国や県などの補助事業を紹介。申請方

豪雨災害 農業早期復興へ



被災した農家に補助事業などを紹介する県職員(中央)ら。30日午前、宇和島市吉田町立間

法などを説明し、「被災箇所の写真を撮って送っていただく。被災箇所を把握し、支援制度などを教えてもらってありがたかった。元の農業を取り戻せるように頑張りたい」と話した。

同市吉田町立間のかんきつ農家山本弘さん(71)は「個人の方だけではどうにもならないので、支援制度などを教えてもらってありがたかった。元の農業を取り戻せるように頑張りたい」と話した。

同市吉田町立間のかんきつ農家山本弘さん(71)は「個人の方だけではどうにもならないので、支援制度などを教えてもらってありがたかった。元の農業を取り戻せるように頑張りたい」と話した。

同市吉田町立間のかんきつ農家山本弘さん(71)は「個人の方だけではどうにもならないので、支援制度などを教えてもらってありがたかった。元の農業を取り戻せるように頑張りたい」と話した。

平成30年7月31日(火)

第6章 災害を振り返って

後世に伝えたい・残したい

「あのときの声、あのときの想い」

平成 30 年 7 月豪雨による大きな災害の経験は、私たちにとって忘れられない記憶として刻み付けられました。その記憶を後世へと伝え残し、未来に向けて役立てられるように、7 月豪雨を経験して感じたさまざまな想いや、後世に伝えたいことなどを 140 字以内で広く募集し、お寄せいただいた「声」をここに掲載します。

※実施要綱

【募集内容】 平成 30 年豪雨災害を経験して感じたさまざまな想いや後世に伝えたいことなどを 140 字以内で自由にご記入ください。

【応募資格】 本人もしくは身近な方が被災された方や、平成 30 年 7 月豪雨をきっかけに、宇和島市と関わっていただいた方など。(市内外は問わず)

【募集期間】 令和 2 年 11 月 1 日 (日)～令和 3 年 4 月 28 日 (水)

※一部明らかな誤字は修正のうえ、原則原文のまま掲載しています。

第 6 章

災害を振り返って

あちらこちらと土砂災害、豪雨災害が起きた。7 月 7 日は吉田町夏祭りが行われる予定だったが 10 日過ぎても飾り付けが残ったまま、どこも町中水害で後片づけに皆大変な思い。浄水施設ダメで断水、自衛隊の方々親切でした。水をもらいに何度も公民館や小学校へ。一人暮らしはつらかったです。死んだ方もあり二度とない様祈ります。

(吉田地区・80代) ノンちゃん

豪雨災害で変わり果てた街を大勢のボランティアさんが、一生懸命作業していたことを思い出します。今は災害があったことを忘れるぐらい戻りつつあるこの風景。あの時、復興の願いに集まった“ひとの思いや繋がり”がかたちになった成果だと思います。この思いを忘れず、伝えていきたいと思っています。(その他・50代) しげさん

あの日、僕は、ゲームを朝している時に、雨があまりにも強かったので、気になって外を見ると水がたまっており、結果、家はゆが下浸水していました。それからの生活は大変で、親の手伝いをしていました。僕が今みなさんに伝えたいことは、いつ災害がきてもいいように準備しておく事だと思います。

(吉田地区・10代) ふでぼこ

普段、水道の水がでることが、とても大切で便利なことが改めて分かり、あたり前ではないことも分かったので、これから水を使うときは、きちんと使いたいと思った。

(三間地区・10代) ガムシロップ

私が住んでいた地域は特に被害がなく、今日は雨が強いな、くらいとしか思っていない。隣の地区が大きな被害にあっていたのを知り、衝撃を受けたのを覚えています。自然災害は避けることができないものなので危険を感じたらすばやく避難するようにしてほしいです。

(宇和島地区・10代) はまきん

友だちの家がしんすいしてひなんすることになった。私じしんはなんとまなかつたが、なかのいい人がひがいにあつたのはおわつてからわかつた。できるかぎりてつだいたかつたが、なにでもまなかつた。

(その他・10代) ミスターリング

今まで30年の豪雨災害の規模の災害は、起こらないであろうと考えていた。その為どこか他人事のように思っていたが、被災してみると一生忘れられない出来事となった。今は、どんな災害でも起こりうるだろうと思ひ、生活している。

(吉田地区・50代)

豪雨災害当時私はさいわいなことに家にいた。あの時のまおくは忘れるわけがない。

(宇和島地区・10代) ニックネーム

災害地域には、多くの身内や友人が居りましたが身体は一個の為、不義理して申し訳ない気持ちでした。ボランティアの活動には、感謝しています。今後、恩義を返せるように後世に伝えたいと思います。(吉田地区・60代) マグチ

部活の試合ができなかったことがくやしかった。(宇和島地区・10代) 湧太

僕は、その時は三島地区について、あんまり状況は分からないけれど、大変になったことは、知っています。ニュースとかを見て、これはすごいなと思ひました。学校は、大丈夫かと思ひました。今でも学校は、あるので、よかったですと思ひました。災害が続いても、みんなの力で乗り越えたらきっと幸せな事が起こる。

(その他・10代) 松浦

7月7日、娘たちを連れて吉田の夏祭りに行くはずだった…。職場のPCには次々と被害の情報がアップされ、携帯からは水の恐怖に怯える姉と叔母の声。7月8日、どうにか宇和島に戻り、吉田へ。見慣れた町の信じられない光景。「俺がやる。」気づけば宇和島事務所への災害派遣に手を挙げていた。

(宇和島地区・40代) 土木職員

私が覚えているのは吉田高校、三間中、三間高?!とかの何校かの学校へはみみちいなのに全校生徒でメッセージを書いたことを覚えてます。家の方では宇和島だったのであんまりピンとはこなかったけれど、中学校でみせられた動画がしょうげきでした。これから何が起こるかわからんけど助けあいたい。

(宇和島地区・10代) ナマケモノ

あのときの声、

あの時僕は、家にいて、使っていたスマホがきゅうなりだして、びっくりしました。僕の家ふきんは、なにもしがいがなかったのも、良かったですが、テレビを見てみると、いろんなところがひがいにあっていたので、少し自分の家もこんなになるのかなと思ひてしんぱいでした。

(宇和島地区・10代) ジバニャン

川があふれて家が水につかりしてとても大変でした。でも、ボランティアの人々のおかげで片付けが早く終わりました。人は助け合いで生きていけることを忘れないでほしいと思います。(その他・10代) プリン

被害を実際に目にして、復興は難しいと途方にくれましたが、立ち直れたのは「人の力」あってこそ。その力を信じて、前を向いて少しずつ。(吉田地区・40代) マル

毎日、あたり前のように使っている水道、電気が急に使えなくなった。自分の住んでいる所は大丈夫と思ひて毎日を過ごしていたから急に災害が発生した時はとても大変だった。常に防災グッズを準備していないといけないと思ひました。

(吉田地区・10代) 黄金バナナ

2年前の当日に豪雨災害が起きたとき、多くの被害が出ていたのを覚えています。見た時に、やばいと思ひました。また、被災した被害を忘れないでほしいと思ひました。(宇和島地区・10代) けずや

今まであったはずの家、山が崩れていて全て茶色になっていました。一週間前にたまたま知り合いの人と会ったので話しました。その人が行方不明になっていると聞き不安と恐怖でいっぱいでした。数日経ってその人が亡くなって見つけたと聞き涙が沢山出てきました。あの日は忘れるべきではないと思ひます。

(吉田地区・10代) たらこパスタが食べたい

被災当時は、分からないことばかりで、市役所に電話すると、市役所の方も分からないなりに、真剣に話を聞いていただきました。結果、いろいろな課にまわされましたが、どこの課でも真剣に話を聞いていただき、そのとき、どうしていいか分からない私にとって、少し安心できた対応でした。(その他・50代) momo

今、ここにおれることに感謝です。いつもと変わらない毎日の朝の時間が、一瞬のうちに、土石流の中に消えていきました。私達家族も、2、3分遅かったら、今ここにはいませんでした。(吉田地区・10代) かすば一

私たちが中学3年のときに、災害の様子をニュースで見ました。最初はこんなにひどく災害が起きると思っていませんでした。体験した人は本当に辛いと思います。その人たちの為に全員が忘れないように少しでも何かできることがあればいいと思います。(宇和島地区・10代) みっぷろ

朝おきると、大阪に住んでいる親せきから電話がたくさん入っていて折り返しかけ、テレビを付けると、宇和島が映っていました。私の家は、山おくなので、とても不安になりました。その数分後おばあちゃんが帰って来て安心したのを、今でもおぼえています。1人じゃないって心強いなと思いました。(宇和島地区・10代) AAO

被災時の食料・水不足の苦勞、復興への道具不足、災害ゴミの処理方法などが大変でした。全国の被災住民の苦勞が身に染みて感じます。(その他・60代) おやい

僕は今まで災害にあったことはないけど、動画などで災害はどんなものかなどを見てきました。災害はいつおこるか分からないので逃げる準備を心がけておきたいです。自分の身は自分で守り、約束ごとを決めていたらいいいと思います。(宇和島地区・10代) T

豪雨の後、部室など水などが入り生徒や先生で学校全体をできるかぎりきれいにした。すごく記憶に残りました。(宇和島地区・10代) い

家の近くでたくさん土砂崩れが起きたり、断水になったりして大変だったけど、自衛隊の方や親せきの方などたくさんの人に助けってもらったことをよく覚えています。私は当時、大変だったからこそ、たくさんさんの優しさを感ずることができました。(吉田地区・10代) Y

家族や友人と過ごせること、のどが乾いたら水を自由に飲めること、暑ければクーラーを使えること、風呂に入れること、布団で寝られること…。災害は一瞬で「当たり前」を壊していきます。日々の「当たり前」への感謝と、それを守るための備えの大切さを痛感した2年前でした。(その他・30代) 温子

あのときの想い

豪雨でいろいろなことがあり大変でしたが、あきらめなければどんなことでもやっていけるのでこれからはあきらめずに頑張ってほしいと思いました。(三間地区・10代) ライ

大変なのはテレビに取り上げられている場所だけではない。私が住んでいた場所は、大きな被災ではなかったが、近所の道には大きな木がたおれ、食料などを車では買いに行けなかった。すぐでつきよすることができたが、木がたおれたままだとなににもできない。今の生活がどれだけべんりが考えることができた。(その他・10代) うさぎ

先人たちが遺した「旧立間村文書」の多くが、洪水により水没、被災した。幸い、ただちに愛媛大学を中心とする「愛媛資料ネット」により、復旧のための活動が行われ、市内外から多くの支援をいただき、地域の歴史を取り戻すことができた。愛媛大学の教員・学生諸氏が再生に尽力したことを伝えてほしい。(その他・50代) えひめ記録史料を守る会

豪雨当日は朝から今までにない大雨が降っていました。土砂災害も発生し、自宅も浸水被害にあいました。復旧作業で追われる毎日でした。しかしいろいろな方からご支援して下さったおかげで無事に復旧作業が終わりしました。ご支援して下さったみなさん本当にありがとうございました。(吉田地区・10代) ウッチー

大雨とかがたくさんふったりしてたくさんの人たちが困ったときに私は、ぼきんぐらいしかしてあげられなかったのが今でも辛い気持ちになりました。もっとたくさんの人と協力して役に立ちたかったと今でも、こっかいしています。(宇和島地区・10代) ひな

私のところはあまり被害はなかったけど吉田地区の現状をニュースで見ると他人事じゃないなと思った。死者も出ていて、そこで気づいたのですが、人はいつどんな時に死ぬか分からないから日頃から感謝を伝えたり、優しくしたりと、後悔のないように皆さんのぶんまで生きようと思います。(宇和島地区・10代) 子夏村今

宇和島地区に住んでいる私の周辺はあまり被害はありませんでした。ですが、大雨や強風などという被害がありました。私の友人の家は水がつかって家から出れないと言っていました。突然の事でびっくりした人が多いと思います。今後このような被害を出さないように私達で協力し、平和に暮らしたいです。(宇和島地区・10代) ミナ

普段の生活が当たり前だとおもうないで!!

(宇和島地区・40代) つばし

本当に、何が起こるかなんて誰にも分からない。

(その他・30代) 煉獄さん

あのとき警報の放送は聞こえなかった。あの時家の前の道は川になってた。すぐに出るように電話し「わかった」といった声が最後になった。私にとってかけがえのない家族は生き埋めになっていた。竹ヤブはあったが柱一本もないのっぺらぼうに。あの大きなコンクリートのかたまりが何個もころげ落ちていた。何なんだろうと思う。(吉田地区・70代)

数日間水が止まって大変だった。近所の人井門から水を分けてもらったり、父の仕事場から持って帰ったりしてもらってしのいだ。お風呂も週に数回しか入れなかった。家が床下浸水して、工事が必要になったので、一か月くらい仮住まいした。車が水没してこわれたのがとても悲しかった。(吉田地区・10代) あ

私の中3の時に通っていた中学校の一階部分が全て災害でダメになってしまい、休校をよぎなくなりました。学校が使えない間は、各地域の小学校へ通っていました。中学校の体育館が使えなかったため、文化祭などができませんでした。自分自身は中3で最後だったので、できなくて少し悔しかったです。(吉田地区・10代) K

最初は普通の雨だったのですが深夜に起きてみると外は今までの雨の降り方が変わりました。音が鳴り響いていました。僕が住んでいる宇和島地区はなんともなかったですが、テレビで吉田地区の光景を見た時は今でも忘れられません。町という原形を留めておらず湖のようでした。(宇和島地区・10代) ハゲザルです

県外在住。最初はマスコミで取り上げられることもなく、被害の深刻さが分からずSNSの情報が頼りでした。生の声をリアルタイムで届けられるSNSの重要性を感じました。(その他・40代) ma---ch

あのときの声、

とても怖かった。これからは、このことを思い出し、口頃の生活の幸せを感じたい。

(宇和島地区・10代) 悠魁

川からすぐ離れて避難しよう。(宇和島地区・10代) ゴボウ

たくさん被害が出てたくさんの方が悲しみました。その姿を近くで見ても辛かったです。三間町はいつか断水になりました。しかし、たくさんの方に助けられとても嬉しかったです。そして改めて感謝したいです。こういうときだからこそ助け合いを忘れないでほしいです。(三間地区・10代) みいちゃむ

「泥水に泣きいただいた愛に感謝の暑い夏」紙コップ1杯の水で歯磨きと洗顔をし、山を引き裂いた重い泥除けへ。流された片付けに欠かせぬのが水という皮肉。通水再開の無線放送にパンザイし涙が。忘れないぞ! 全国からのマンパワーと支援、線状降水帯予報は避難あるのみと。(吉田地区・70代) 良子

自然の災害を見てすごかった。(宇和島地区・10代) 侑希

この豪雨災害で相当な被害ができました。だからこの災害をいかして雨に負けないような町に変えたいです。この時私は中学2年生で部活のえんせいがある予定でしたが豪雨で中止になりました。この時の私はうれしいうれしい気持ちでした。しかし、テレビで相当被害がでていることに気づき反省してたのを思い出します。(宇和島地区・10代) アップルりんご

あの日目が覚めるとそこは別世界でした。大好きな地域の姿はなく一面茶色の海でした。水が消えると泥が残り私が育った保育園は浸水していたため壊れ、今は平地しかありません。愛犬も病気に亡くなってしまいました。何より普通がなくなりませんでした。普通が幸せだったのだと今更気付かされました。(吉田地区・10代) ダンボールの中には

ボランティアとして支援に行きました。社協のボラセンは地元 / 近隣の初心者や上手く活用する仕組みとしては、日本独特の優秀な発明なのですが、ベテラン、リピーター受け入れの「民間ボラセン」の仕組みを検証し、改善して、後の災害に活かすべきです。被災地責任、災害サイクルなどともいわれます。(その他・50代) いち ボランティア

第6章

災害を振り返って

あの日、私の家は被害はありませんでしたが、近くの川が少しずつ溢れ、田んぼが浸水していくのを目の当たりにし、とても怖かったのを覚えています。後日、吉田にボランティアで行きましたが、TVでは伝えきれない被災者の無念さや苦勞を直接知りましたが、皆さん前向きで、逆に元気をもらいました。(その他・20代) 松

生まれて初めて自分自身が災害にあって何をすべきなのか全くわからなかった。家の近くでも浸水したり、土しゃくずれなどが多く起きたため掃除をして、断水にもなり3km先に水を取りに行ったり大変だった。もともと人が少ない地域で片づけが本当に大変だった。授業も無くなって勉強も不安になった。(吉田地区・10代) ともひろ

他人事ではなく、自分事。そう捉えることが簡単なようで、とても難しいことを実感した出来事だった。変わり果てたまち。昨日まではなかった光景。当たり前の日常が一変した。再び起きないとも限らない。ぜひ、自分事に。(宇和島地区・30代) 災害学び隊

人生の中で絶望する時、幸せな時、悲しい時などいつ何が起こるかわからない。でも人が協力すればどんなことだって乗り越えられる。だから、困った時は手を取り合ってみんなでどんなことにも立ち向かっていって下さい。辛いという字に一を加えれば幸せになるように一つずつゆっくり幸せになれるように。(その他・10代) のんきな学生

私の親せきはこの豪雨災害で亡くなりました。私は逢った事も話したこともないけれど、その事を聞いた時初めて他人事ではなくてみじかなんだという事を知ったしその時私の母親は、「今度逢いに行く予定だったのに。」と泣いていました。私は、感謝の言葉や逢いに行く時は後回しにせず、今言う事に意味がある。(宇和島地区・10代) ヴィクトリア女王さん

1ヶ月後に宇和島に行つて豪雨の爪痕を見ましたが、災害を身近に感じました。

(その他・30代) じゃこ

あのときの想い

今通っている学校が被害にあったことを、数年たった今でも信じられません。今こうして心おきなく学校に通えているのは、被災された方々だけでなく、ボランティアの方々や様々な心優しく支援してくださった方々のおかげだと思います。感謝してもしきれません。(宇和島地区・10代) あゆ

大丈夫でしたか？僕は大丈夫でした。もうあんな事はおきてほしくないです。(宇和島地区・10代) しょーちゃん

私の住んでいる地域では豪雨災害での被害はありませんでした。ただ、周りの人は実家が被害を受けて、私自身も土砂の片付けの手伝いに行きました。そこで、私は「運よく被害がほとんどなかっただけなんだと実感しました。こういう災害に関して、無関心でいたらダメだと思いました。」

(その他・20代) つかさ

私の家は床上浸水で被害は大きかったです。近くの商店の人からカップラーメンなど食べられる物をいただきました。その後母と一緒に地域の人も配りました。初めて話す人が多かったけれどとても優しい方たちでこの地域で良かったと思いました。災害のときでも思いやりは忘れない……。(吉田地区・10代) ねこまんま

災害の時に、私の家の前の畑が沈んでいました。元々雨が好きなので、最初はちょっとワクワクしてました。でも、畑を見た瞬間、その気持ちは一気に不安へと変わりました。70年近く生きている祖母もこんな光景を見たのは初めてと言っていました。もうこのような絶望的な不安にはなりたくないです。(宇和島地区・10代) にきび①

僕は、宇和島に住んでいるので豪雨の時は、雨強いな程度の感じで思っていました。ですがニュースや学校で吉田町の方の写真や映像をみて、ものすごい被害に合っているのを知りました。当時僕は中学生で中学の先生に被災された先生がいて話を聞くとそういう目に合いたくないなと思いました。(宇和島地区・10代) 武内

災害を受け、今まで以上、人々とのつながり、家族の絆、同僚の思いやり、友情の大切さを知りました。恐怖、嫌な気持ち等、一人我慢せず、みんなが話し合い、乗り越えられます。助け合い、話し合い、支え合いの生活が一番です。(吉田地区・40代) yanvan

あの日、真っ白く屋根を叩く雨の音がなんだか不安をよぎった。家の横を泥水が流れ、道にまで流れてきた。携帯に友から連絡がきた仲良しグループでお互いの状況を確認していたが一人だけ既読がつかない。消防や近所の人の話で友達の家が海まで流され捜索された…友は空へ…今も消せない友の携帯

(吉田地区・50代) 友を忘れない

この災害があった日、私は15才の誕生日でした。目を覚ますまでは楽しい1日になるといいなと思っていたけど全く逆のことが起こり不安でいっぱいになりました。何気ない毎日でたくさん辛いことや苦しいことがあるけど、自分の足で生きていることはとても幸せで楽しいことだと思いつらされました。
(宇和島地区・10代) にきび2

災害をあまくみたらいけないと思った。
(その他・10代) しゅん吉

七夕になると思い出す事です。8日の朝早く母からの携帯が水が入って来てベッドの上に座っていると！逃げたくても玄関も開かない助けに行く事もできない！次の連絡は窓から消防団の人におぶってもらい高いところに連れて行ってもらったと！感謝感謝でした。本当にありがとうございました。(吉田地区・60代) 菜の花

いつもは静かな河内川、コイ、フナが泳ぎ憩いの川が茶色の濁流となり水田地帯は大海となって下流へ。二階からボーと今を眺めるだけ…。人間の無力さを知り又自然の力の怖さをつくづく思い知りました。
(吉田地区・70代) 吉田のがんばるじいちゃん

当時自分は災害時の豪雨について、かなり強い雨だとしか思っていませんでした。ただ、学校の先生や、親からは川には近づくな山の方には行くななどと、強く言い聞かされました。実際、高校では近くの川の水が体育館の床にひたるまでに増え、先生方が対峙したと聞きました。
(宇和島地区・10代) Atsushi

家が床下浸水をしました。床下の泥除けと車庫の泥除けと本当に大変でした。断水により水の確保も毎日、車にタンクを積んで給水場に通いました。嫁さんも子供も協力してくれて1ヶ月以上洗濯も毎日通いました。思い出すと大変な毎日でしたが、家族の絆が深まった気がします。これからも頑張っていきます。(吉田地区・50代) ヤマト

あのときの声、

自分が勤めている会社の工場や、学生時代を過ごした地元が被害にあいました。いざ、自分の身の回りに及んで初めて、他人事だと思っていた災害が、誰の身に起こりうる事なのだと強く実感しました。(その他・20代) N

あの日私は中学二年生でした。家の近くでも土砂崩れが起き多くの方が巻きこまれ、生きうめになっている。この言葉を聞いたとき、何もできませんでした。この日から私はこまっている人などをみかけると「助けたい。」と思うようになりました。多くの方がぎせいとなったことを忘れないでほしいと強く思います。
(宇和島地区・10代) ばくん

百年に一度？青田が泥海と化す。風呂窯に山水を引き生活用水基地に。鍋を総動員して湯を沸かし、上澄みを掬いのべながら風呂、トイレハバケツ2杯。紙皿にラップ、弁当箱は紙コップ、夕食はおかず宅配に。ドブ臭の泥かき中、給水車や自衛隊機を見送る非日常。皆、力を合わせて生き、支えられて今がある。
(三間地区・50代) 白いコスモス

2年前に大雨がありました。あの後は、たくさん家に子供がいて雨の音にないてしまった。なのでもうあんな大雨がきてほしくないなと思っています。
(宇和島地区・10代) 玉ちゃん

とてもこわかった。
(その他・10代) ゆうや

私は宇和島に住んでいて、経験したりはしてませんが、とっても大きな被災を受けたと知っています。豪雨災害で、何もかもが失われたと思います。映像をみたときいっしょにいて、家や、人が流され、経験された方は、目の前で人が流されたり、自分の家が流されたり、どういう気持ちで見ていたのか覚えていてほしいです。(宇和島地区・10代) まな

僕が中学3年生の時でした。僕が住んでいる津島では、あまり災害はありませんでした。しかし、吉田からきている先生が中学校まで水をくみにきていたのを覚えています。僕はそれを手伝いました。もうこのような災害はおきてほしくないけど、いつおこるかかわからないので対策をしていきたいです。(津島地区・10代) ニキビ3

テレビの中の話だと思っていた。
どこかで、自分とは関係ないと思
っていた。親しい人たちが普
通の生活ができなくなり物資を
集めて送った。とにかくみんな無
事でよかった。

(その他・40代) Kazu

あの日は家の窓の前に座り外を眺
めていました。幾度となく降り続く
雨を見て吉田にいいよこの心配を
していました。次の日にニュースを
見て衝撃を受けたあの感覚は、当時
中学3年生だった私の心に大きく響
き、これからの進路などの未来に不
安を覚えました。

(宇和島地区・10代) ペンギン

幸せになってください。
(宇和島地区・10代) a

僕は被災してはいませんがニュー
スなどで見て身近なところであ
んな災害がおきるとは思ってませ
んでした。災害はいつどこでおき
るかわかりません。そのときのた
めにしっかりやなえができたらい
いと思います。

(津島地区・10代) しょう

被災したときはつらい気持ちや自分の大
切なものや人などがなくなったりと大変
な思いをしてきたと思うのでこれからの人
生に期待をもち大変なことを乗り越え
られるよう日々がんばってください。

(吉田地区・10代) 赤井秀一

あの日、上流から流れてきた土砂が
水と共に家を襲った。土囊を乗り越
えたそれに負けまいと持てるだけの家具
を2階に上げようとしたが、無惨に
水没していった。豪雨の前で人は無
力だ。だが、復興で築いた絆は大切
な宝になった。お世話になった方々
は感謝しかない。

(吉田地区・10代) えり

豪雨災害によって様々な被害を受
けたので、自分たちはだいじょう
ぶだと思わずにしっかり対策をし
ておいてください。

(宇和島地区・10代) 匿名

平成30年7月の豪雨災害で色んな方々が家や物や土砂で亡く
なられて家に変な土砂が流れ込んで、学校にも行けなく、友達、
おじいちゃん、おばあちゃんは大丈夫かと心配になったでしょ
う。私もなり、命の大切さをあらためて感謝して、いつでも命
が守れるように日頃から、行動をしていこうと思いました。
(宇和島地区・10代) Cooky (クッキー)

あのときの想い

豪雨の時の状況は唖然とし
ました。復旧への取組は一
歩一歩だなぁと感じました。
現在、多くのひとが日常の
生活を取り戻しつつあると思
います。今後、どんな災害
がおこるかわかりませんが、
地域全体で取組んでいく必
要があると改めて考えさせら
れました。

(その他・40代) おっさん

2年前の豪雨災害で被災された方々
も少しずつ生活を取り戻しているけれど
2年前の豪雨災害は誰もが忘れない
と思う。

(三間地区・10代) はるちゃん

最初は大雨で災害になるとは思ってもいなかったの
でもとおどろきました。初めての大きな災害でと
ても怖かったです。さいわいに自分の住む地域では
あまりこわいことや土しゃくずれはおきなかったのよ
かったと思いました。それでも多くの地区が災害に
あわられていて災害の恐ろしさがつたわりました。

(宇和島地区・10代) こうちゃん

おそろしいと思った。

(その他・10代) 菜々ちゃん

撤去作業に駆け付けた時、吉田商店街が
ドラマの中に出てくる戦後の日本のように感
じた。今までは災害が遠い世界の出来事だっ
たが、あの時災害の怖さを嫌というほど思い
知らされた。今は何事も無かったかのよう
に……。復興に携わった方々に心から感
謝を申し上げます。

(吉田地区・40代) よしくん

災害翌日 7/8 昼に車で宇和島から吉田
町へ。道中の片側交互通行、通行止めを
迂回する所で、交通整理の方々がいらし
た。職場は30cmの浸水で床一面に泥
水がべったり。断水での清掃が始まる。
吉田の夏祭りが行われるはずだった商店
街の七夕飾りが、片付けられることなく、
しばらく土煙をかぶり続けていた。

(その他・40代) 職場が吉田町

豪雨災害を経験して、私たちは水が一か月間出なくなりました。
水をくみに行ってトイレなどに使っていました。でも、これ
は支援があったおかげで生活できていました。水害で家が
なくなる人もいて、たくさんものを失った人もいました。早く
完全に復興できるといいなと思っています。

(吉田地区・10代) にしぎん

平成30年7月豪雨災害の前日からものすごい雨がずっと激しい音を立てて降り続いていました。そして朝起きると、川の水があふれそうでした。その後少し水があふれ、次の日に道に川の水の枝やゴミがありました。とてもびっくりしました。(宇和島地区・10代) 佐矢将樹

災害は終わってからも続きます。災害発生してしまえば、元の生活に戻るまでは時間や労力は計り知れないもの。。。特に、仲間の死に直面することとなれば。。。なおさら。普段からできることは、災害が起こっても被害を出るだけ少なくできるように考え行動することかなと今になって思います。(宇和島地区・40代) みか

川の水が道路まで上がったときには、さすがにびっくりしました。私の住んでいる地域では、幸い断水以外の大きな災害もなく近所の人たちも無事でした。ですが、同級生の中には大きな被害を受けた人もいました。(三間地区・10代) 宇宙王者

私が西日本豪雨のあった日、あさ起きたら家の前が川のようになっていました。その次に停電がおこり水がでなくなってしまいました。私の家はさいわいに電気が1日でふっかつしたので良かったですが、私の友人の家は家の床に水が入っていて、ゆかをはがすじたいになりました。(吉田地区・10代)

土砂が流れ込んだ会社を見て言葉が失いました。復旧に向け社員一同あの暑さの中土砂のけに何日もかかったのを思い出します。非常時には民間、行政垣根なく助け合いの心が一番だと感じました。(津島地区・50代) HD

自分の住んでいる所は全く被害はなかったが、外や川の水の増え方を見て、とてつもない危機感を感じた。自分も被災してもおかしくはない状況だったけど運よく助かっただけ。これからはちよつといつもの天気とは違うなと思うた時に、周りの声、情報をしっかりと聞くことが大切だと思った。(宇和島地区・10代) ゆたか

あのときの声、

自宅に被害はなかったが、他の地域は被害が大きかったので不安だった。(宇和島地区・10代) 吉見

私が伝えたいことは、当時の私はまだ中学2年生で家も家族のみんなも無事でした。しかし、宇和島市三間町、野村町を中心に大きな災害がおきており、何人もひがい者が出て大変だったということの後で知りました。いつ何かが起こって想像のつかないことが起きてもいいように前から準備は大切だと思いました。(その他・10代) K

自分の家は大丈夫だったけど川の水も他人の家をみたらすぐみずがあふれていておどろきました。そのとういは、中学でボランティアで町の人々のついでをいしてほんとに災害はこわいんだとはじめていました。(その他・10代) やーくん

災害後の片づけはものすごく暑く、乾燥した汚泥が舞い上がるような劣悪な環境下で気が遠くなるような作業ですが、弊社は社員が協力してこの難局を乗り越えることができました。人の存在、笑顔とエネルギーが励みになるということを実感し、感謝する貴重な体験でもありました。(その他・50代) こりす

豪雨災害で大変な思いされている方々に普通の生活に戻れるよう一步一步前進で新たな夢と希望を持ってもっと笑顔が増えていったらなと思います。これからも頑張ってください。(宇和島地区・10代) お兄ちゃん

7/7土曜日、驚きと心配で胸がいっぱいになりました。あのときの思いは忘れられません。被災された地域外からの支援の大切さが伝わりました。(その他・40代) みかん

災害はこわい
(宇和島地区・10代) 山と田んぼ

雨がふっていた、大雨だった。ネットやニュースにも雨のことがのっていた。友達の家が水で流された。おぼの家も水が入っていた。スナが多かった。(宇和島地区・10代) あ

自然災害はいつどこで起こるか分かりません。発災後は一番は落ち着くこと。まずは自分の命を守るための行動を。自力で無理ならSOSを。無理はしないこと。困ったことや辛いことなど悩みは誰かに伝えて一人で抱え込まないでください。気づいた人は声をかけて早い段階で寄り添うことが復旧活動を加速させます。
(津島地区・50代) 吉田町救援隊

お父さんが宇和島市の職員でしょうぼうだんにも入っていて、お父さんが災害の時、しゃつどうして、しゃしんなどをよくみせてもらった。すごくひさんで、こわかった。あんなこと二度とおきてほしくない。(宇和島地区・10代) ひなちま推し

私は災害が嫌いです。悪い事をしていなくても辛い思いをする人や亡くなってしまおう人がいるからです。私の知っている人も亡くなりました。あまり話した事はなかったですがとても明るくて元気な子で、まだ幼いのに命を落としました。その子の分も私たちは生きていかなければいけないと思います。(宇和島地区・10代) ビノ

私の所は被害が無かったけど、近くの所がたくさん被害があってびっくりしました。少し怖かったです。
(宇和島地区・10代) みかん

私の地区は被害がありませんでしたが、テレビで見た時の衝撃がすごかったです。思っていたよりも荒れていて、色んな人が被害にあっていて、断水もしてたと話も聞き、びっくりしました。あの時の衝撃は今でも忘れられないです。(宇和島地区・10代) キムチちゃん

あのときの想い

私の地区、三間区は家の裏の竹やぶが土砂くずれのように、地面が少しずれていました。三間町は、一時期断水になり、飲む水はちろんお風呂の水などもできなかったため、鬼北の温泉で体を洗ったり、いとこの家にたよったりしました。水がでなくなった時に助けてくれて本当にうれしかったです。
(三間地区・10代) ミト

市外に住んでいますが、実家は市内吉田町にあり、床上120cmの浸水により1階部分の家財等がすべてゴミとなりました。しかし、1階部分が住居として使っている母親は運良く病院に入院中で無事だったことは本当に奇跡的でした。今では、1階部分もリフォームされて母親も元気に生活してくれています。
(その他・10代) シロ

失うのは一瞬、取り戻すのは一生
(その他・30代) しお

私の地区はそんなに被害がなく家にずっとこもっている生活をしていました。その時に祖父から電話がかかってきて、「家の中に水が入ってきた」と言っていました。祖父と祖母とは別々に暮らしているので心配でありませんでした。後日家族みんなが掃じをし、いつも通りの生活にもどることができました。
(その他・10代) みき

いつもの日常は当たり前ではない。と強く感じました。またボランティアの方々に非常に助けられました。お互い様・支えあいということを常に考えて行動していこうと思います。
(宇和島地区・40代) 吉田オレンジ

私の住んでいた地域は大丈夫でしたが、岡山県の真備町では家が流される等の映像が全国放送で流されるくらいの被害でした。私は、その年の夏休みにボランティアに行きました。真備町に入ると、色も道路も植物も土一色で前見たような町のかつきはなく呆然としたのを今でも覚えています。
(その他・10代)

豪雨の前夜8時くらいまで吉田にいました。前日には想像できなかった風景をニュースでみて悲しかった。記憶は風化させたくないと思いました。
(吉田地区・40代) ss

復興支援で、松山から宇和島の被災現場へ行きました。倒れそうになるくらい猛暑下での作業は心が折れそうになりましたが、被災現場を元の姿に戻そうと、前を向いて懸命に作業をする現地の人達の姿を見て、支援に来た側の自分が逆に励まされました。(その他・30代) ぼん

私の家は直接被害を受けていないけれど、いろんな地域の人たちが協力して助け合いながら乗り越えることが大切。心の面でも支え合って進んでいこう。

(宇和島地区・10代) A

とても大変だったとして助けたいと思った。
(宇和島地区・10代) 時田シロウ



簡野道明記念吉田町図書館再開



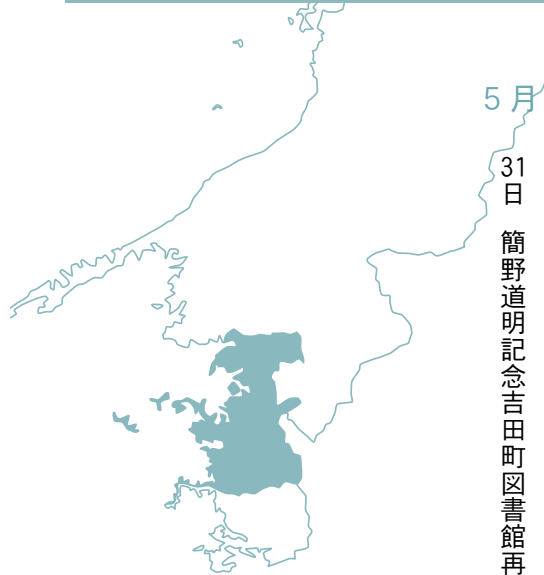
かんきつ園地の復旧作業



～復興への道～ 吉田町マラソン大会



吉田ふれあい国安の郷再開



5月	4月	3月	2月	1月	12月	11月
31日 簡野道明記念吉田町図書館再開	4日 「市復興計画」を発表	2日 市産業経済部農業復興統括官に元農林水産省職員 前田 安止さんを任命	1日 吉田ふれあい国安の郷営業再開	28日 えひめ宇和島復興応援フェア (～3月17日・宮城県仙台市)	14日 吉田中学校復旧記念式典・立志式	12日 ヤフー(株)からの復興支援を発表
			20日 うわじま特産応援フェスタ	7日 豪雨から半年。各地で黙とう (吉田公民館内)	23日 復興への道く吉田町マラソン大会	31日 県災害対策本部解散
			7日 ヤフー(株)からの復興支援を発表	4日 簡野道明記念吉田町図書館一部再開	21日 吉田中学校災害復興祈念碑完成	1日 復興に向けて外部人材を受入
			12日 ヤフー(株)からの復興支援を発表	23日 復興への道く吉田町マラソン大会	8日 吉中愛顔未来フェス	3日 吉田町秋祭り
			20日 うわじま特産応援フェスタ	7日 豪雨から半年。各地で黙とう (吉田公民館内)	3日 市民アンケート調査実施	3日 吉田町秋祭り
			14日 吉田中学校復旧記念式典・立志式	4日 簡野道明記念吉田町図書館一部再開	21日 吉田中学校災害復興祈念碑完成	1日 復興に向けて外部人材を受入
			12日 ヤフー(株)からの復興支援を発表	23日 復興への道く吉田町マラソン大会	8日 吉中愛顔未来フェス	3日 吉田町秋祭り
			7日 豪雨から半年。各地で黙とう (吉田公民館内)	4日 簡野道明記念吉田町図書館一部再開	3日 市民アンケート調査実施	3日 吉田町秋祭り
			20日 うわじま特産応援フェスタ	7日 豪雨から半年。各地で黙とう (吉田公民館内)	21日 吉田中学校災害復興祈念碑完成	1日 復興に向けて外部人材を受入
			14日 吉田中学校復旧記念式典・立志式	4日 簡野道明記念吉田町図書館一部再開	8日 吉中愛顔未来フェス	3日 吉田町秋祭り
			12日 ヤフー(株)からの復興支援を発表	23日 復興への道く吉田町マラソン大会	3日 市民アンケート調査実施	3日 吉田町秋祭り
			7日 豪雨から半年。各地で黙とう (吉田公民館内)	4日 簡野道明記念吉田町図書館一部再開	21日 吉田中学校災害復興祈念碑完成	1日 復興に向けて外部人材を受入
			20日 うわじま特産応援フェスタ	7日 豪雨から半年。各地で黙とう (吉田公民館内)	8日 吉中愛顔未来フェス	3日 吉田町秋祭り
			14日 吉田中学校復旧記念式典・立志式	4日 簡野道明記念吉田町図書館一部再開	3日 市民アンケート調査実施	3日 吉田町秋祭り
			12日 ヤフー(株)からの復興支援を発表	23日 復興への道く吉田町マラソン大会	21日 吉田中学校災害復興祈念碑完成	1日 復興に向けて外部人材を受入
			7日 豪雨から半年。各地で黙とう (吉田公民館内)	4日 簡野道明記念吉田町図書館一部再開	8日 吉中愛顔未来フェス	3日 吉田町秋祭り

がんばろう! 宇和島

■被害・支援の状況 (平成31年3月31日時点)

被害(最大)	件数	支援	人数・金額
人的被害	死者(関連死含む)13人 負傷者29人	災害ボランティアセンター	9,726人
住宅被害	全壊61件、大規模半壊115件、半壊804件、一部損壊793件	みかんボランティアセンター	1,784人
避難者数	628世帯1,149人	義援金	13億1千万円
土砂災害	363箇所	支援金	1億円
水道被害(断水)	6,568世帯15,317人	ふるさと納税(平成30年度実績)	3億9千万円
公共土木被害	339件		
農林水産業被害	約8,400件(約254億円)		
商業事業者	316件		

このほかにも、各市町や団体、ボランティアの皆さんからさまざまな形で支援をいただきました。本市は今後も、早期復旧・復興を目指して全力で取り組みます。



吉中愛顔未来フェス



吉田中学校災害復興祈念碑

※発行当時のまま掲載しています



みかんボランティア活動



極早生ミカンの出荷



J R 四国卯之町駅～宇和島駅間開通



建設型仮設住宅完成（3棟12戸）

10月

- 30日 JAえひめ南が早生ミカンをトップセールス（東京都中央卸売市場大田市場）
- 25日 市復興計画第1回策定委員会（市内9箇所）
- 18日 豪雨災害復興関連のタウンミーティング
- 1日 地域支え合いセンター開設
みかんボランティアセンター開設
- 29日 畦地梅太郎記念美術館・井関邦三郎記念館再開
- 25日 市災害復興ロードマップ公表
- 24日 豪雨災害により開設した全避難所閉鎖
- 15日 道の駅みまレストラン再開
- 13日 J R 四国卯之町駅～宇和島駅間開通
- 12日 三間地区水道水「飲用可」
- 12日 各市町からの中長期派遣職員着任
- 12日 産業復興支援室現地オフィス設置、県中小企業者等グループ施設等復旧整備補助金公募開始

9月

- 29日 建設型仮設住宅完成（31日入居開始）
- 20日 被災家屋の解体・撤去申請受付開始
- 18日 みかんボランティア活動開始
- 16日 市内全域で断水解消
- 11日 吉田地区（一部を除く）水道水「飲用可」
- 10日 生活用水（飲用水以外）の給水支援停止
- 9日 災害義援金1次配分決定
- 8日 被災家屋の解体・撤去相談窓口設置

8月



吉田町秋祭り



みま米新米まつり



豪雨災害復興関連のタウンミーティング



復興応援フェア



市内各地で行われた給水支援



自衛隊災害派遣活動



災害対策本部会議



代替浄水施設



各地で発生した土砂崩れ

8月

- 7日 豪雨から1ヵ月。各地で黙とう
- 4日 姉妹都市宮城県仙台市から見舞金
- 3日 三間地区で試験通水開始
- 1日 姉妹都市長野県千曲市から見舞金
- 30日 農業経営相談所開設
- 28日 被災者生活再建支援金、災害見舞金などの受付開始
- 28日 玉津小学校…登校再開
- 26日 かんきつ復興支援クラウドファンディング開始
- 26日 大型浄水装置の運び込み
- 24日 代替浄水施設完成予定時期の前倒し(8月下旬↓上旬)
- 24日 姉妹都市北海道当別町から見舞金
- 23日 みなし仮設住宅、市営住宅一時使用受付開始
- 21日 吉田地区二次災害緊急避難計画(暫定)運用開始
- 20日 姉妹都市宮城県大崎市から見舞金
- 18日 保健師被災地区全戸訪問(8月1日)無料洗濯施設開設
- 17日 吉田小学校…登校再開
- 17日 吉田中学校…旧吉田町内の小学校に分散して登校再開
- 14日 「特定非常災害」指定
- 13日 立間小学校…喜佐方小学校の空き教室を活用して登校再開
- 13日 安倍首相現地視察



約1ヵ月続いた断水が解消され、園児たちからこぼれる笑顔



姉妹都市など全国からの支援



豪雨から1ヵ月。各地で黙とう



平成30年7月豪雨

記録と記憶

本市に大きな爪痕を残した「平成30年7月豪雨」から1年が経過。未だに被害の痕は色濃く残り、復興に向けて今後も継続した取り組みが必要です。

これまでの記録と記憶を風化させないために、この1年を振り返ります。



災害ゴミ仮置き場

7月

- 5日 大雨警報（土砂災害）発表、市災害対策本部設置
災害救助法適用
- 6日 土砂災害警戒情報・洪水警報発表
避難勧告発令（津島町御槇・上槇・清満地区の土砂災害警戒区域など）
第1回災害対策本部会議
- 7日 避難勧告発令（市内全域の土砂災害警戒区域、和霊中町ほか須賀川周辺地域など）
奥南地区で1時間雨量96mmを観測
自衛隊災害派遣活動開始（～8月15日）
保健師・栄養士避難所巡回開始
- 8日 大雨特別警報（土砂災害）発表、同日解除
- 9日 避難勧告全解除
テックフォース（緊急災害対策派遣隊）被災状況調査開始
災害ボランティアセンター開設
- 10日 気象庁が「平成30年7月豪雨」と命名
津島やすらぎの里無料入浴支援（11日）
無料シャトルバス運行
災害相談窓口開設
罹災証明書にかかる被害調査開始
保健師による独居高齢者宅など訪問開始
- 11日 災害義援金受付開始
広報「うわじま号外」が「んぱろう！宇和島」発行
生活再建支援法適用
- 12日 中村知事現地視察
救援物資受入開始（～21日）
奥南・喜佐方小学校…登校再開



災害ボランティア活動



道路・橋の崩壊



相次いだ浸水被害



昼夜問わず行われた救助活動

参考資料・協力者一覧

参考資料

資料名	作成元	作成・掲載時期
宇和島市復興計画	宇和島市	平成31年3月
平成30年7月豪雨災害に関する対応検証	宇和島市	令和元年7月
復旧・復興に関する市民アンケート調査	宇和島市	平成31年2月
出水期に向けた災害防止対策	宇和島市	令和2年6月
平成30年7月豪雨により発生した災害廃棄物処理実施計画～第3版（令和元年6月改訂）	宇和島市	令和元年6月
平成30年7月豪雨災害宇和島市水道被害記録誌	宇和島市水道局	令和3年6月
平成30年7月豪雨災害の復旧・復興状況について	宇和島市	令和3年4月
平成30年7月豪雨警戒避難体制強化のための土砂災害対策検討委員会報告書	警戒避難体制強化のための土砂災害対策検討委員会	平成31年3月
平成30年7月豪雨に係る災害廃棄物処理の記録	愛媛県	令和2年7月
宇和島市災害ボランティアセンター活動報告	宇和島市社会福祉協議会	令和元年6月
JA広報誌みなみかぜ	えひめ南農業協同組合	平成30年8月・令和2年9月
広報うわじま	宇和島市	令和元年7月～令和3年2月
愛媛新聞朝刊	愛媛新聞社	平成30年7月8日～令和元年7月4日

画像提供元（敬称略・順不同）

国土交通省	谷口憲一郎
新居浜市	石田忠弘
(株) パスコ	田中純子
愛工房 (株)	信宮徹也
旭合名会社	武田美紀子
自衛隊	山本剛
愛媛県警察本部	大久保美晴
えひめ南農業協同組合	杉田和男
宇和島市社会福祉協議会	高月あや
(株) 玉津柑橘倶楽部	
宇和島NPOセンター	
四国旅客鉄道 (株)	
共同通信社	
愛媛新聞社	
宇和島地区広域事務組合消防本部	
宇和島市消防団	
南予水道企業団	

※その他市民の方から提供いただきました

ご協力いただいた方々

国・地方・団体・企業より派遣された皆さん	愛媛県立吉田高等学校の皆さん
物資・支援金・義援金などを贈ってくださった皆さん	愛媛県立北宇和高等学校三間分校の皆さん
炊き出しなどさまざまご支援をいただいた皆さん	

平成 30 年 7 月豪雨 宇和島市災害記録誌

令和 3 年（2021年）6 月

発 行 宇和島市

企 画 宇和島市 総務企画部 市長公室
〒 798-8601 愛媛県宇和島市曙町 1 番地
TEL 0895-24-1111

編 集 宇和島市
佐川印刷株式会社

制 作 佐川印刷株式会社

